令和元年（２０１９年）８月１日開会

令和元年（２０１９年）第１０回

茨 木 市 教 育 委 員 会 臨 時 会

会　議　録

写

茨 木 市 教 育 委 員 会

◆　令和元年８月１日（木）第１０回教育委員会臨時会を南館８階中会議室で開催した。

◆　出席委員

教育長	岡田　祐一
教育長職務代理者	武内　由紀子
委員	片山　正敏
委員	篠永　安秀
委員	堀村　佳奈子

◆　本委員会に出席した者

教育総務部長	乾　克文
教育政策課長	玉谷　圭太
学校教育部長	加藤　拓
学校教育推進課長	谷　周平
学校教育推進課参事	尾﨑　和美
学校教育推進課指導主事	磯谷　浩幸

◆　署名委員

委員	堀村　佳奈子

（ 令和元年８月１日（木）、午後２時００分 ）

議事日程 （ 令和元年第１０回茨木市教育委員会臨時会 ）

（ 於：市役所南館８階中会議室 ）

日程	議案番号	件　　名	摘　要
1		会議時間の決定について	
2		会議録署名委員指名について	
3	２１	令和２年度使用茨木市立義務教育諸学校教科用図書の採択について	
4	２２	職員人事について	
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			

（１４時００分　開会）

岡田教育長

ただいまから令和元年第１０回茨木市教育委員会臨時会を開会いたします。

本日は委員会を傍聴したいとの申し出がありますので、ここで入室していただきます。

それでは、傍聴者を入室させてください。

（傍聴者入室）

岡田教育長

本日の出席者は５名でありまして、会議は成立いたしております。

なお、本委員会には部長以下、説明員の出席を求めております。

これより、本日の会議を開きます。

日程第１　「会議時間の決定について」を議題といたします。

お諮りいたします。

本日の会議時間は午後５時までといたしたいと思いますが、異議ございませんか。

（各委員「異議なし」の発言あり）

岡田教育長

異議なしと認めまして、本委員会の会議時間は午後５時までと決定いたします。

日程第２　「会議録署名委員指名について」。

本件は、茨木市教育委員会会議規則第１７条の規定により、堀村委員をご指名申し上げますので、よろしくお願いします。

日程第３　議案第２１号「令和２年度使用茨木市立義務教育諸学校教科用図書の採択について」を議題といたします。

事務局の説明を求めます。

加藤学校教育部長

議案第２１号、令和２年度使用茨木市立義務教育諸学校教科用図書の採択につきまし

て、議案説明いたします。

本件は、令和２年度に本市立小・中学校において使用する教科用図書の採択についてでございます。

中学校「特別の教科　道徳」の教科用図書につきましては、昨年、平成３０年度に採択いたしましたので、「義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律」第１４条及び同法律施行令第１５条第１項に基づき、本年度と同じ教科用図書を採択することとされております。別表１「令和２年度使用中学校教科用図書採択一覧表及び学校教育法附則第９条関係教科用図書について」の、日本文教出版の「中学道徳　あすを生きる」を採択することをお願いいたします。

次に、中学校「道徳」を除く中学校教科用図書についてでございます。

平成３０年度検定において新たに合格した図書がなかったことから、採択にあたっては、４年間の使用実績を踏まえつつ、平成２７年度の調査研究の内容等を活用することができることとされております。現在本市で採択している教科用図書については、学校現場から大きな不都合は聞いておらず、また、前回の調査研究の内容等を確認しましたところ、新しい学習指導要領で示されている「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」を行ううえでも適切であることから、別表１のとおり、本年度と同じ教科用図書を採択することを、原案として提案いたします。

次に、小学校教科用図書についてでございます。

本年度は、全ての教科書について、新たに採択を行うこととなっております。

本市教育委員会では、茨木市立義務教育諸学校教科用図書採択規則及び茨木市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会規則にのっとり、まず、平成３１年４月１９日に茨木市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会の委員及び諮問事項を決定し、４月２４日に選定委員の任命及び委嘱と諮問を行いました。次に、選定委員会での決定を受け、５月１７日に調査員を決定し、５月２７日に任命いたしました。選定委員会では、調査員会からの報告等を含めて慎重に審議をいただき、７月１６日に教育委員会が選定委員会委員長より答申を受け取りました。答申の中の選定教科用図書とその他の教科用図書については、別表２にまとめております。

小学校につきましては、種目ごとに１者の教科用図書の採択をお願いいたしますとともに、「学校教育法附則第９条関係教科用図書については必要に応じて採択すること」の決定をお願いするものであります。

以上、よろしくご審議賜りますようお願いいたします。

岡田教育長

事務局の説明は終わりました。これより質疑を行います。

まず初めに、中学校「特別の教科　道徳」についてであります。

中学校の道徳につきましては、「義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律」第１４条及び同法律施行令第１５条第１項に基づき、本年度と同じ教科用図書を採択することとされております。別表１「令和２年度中学校教科用図書採択一覧表及び学校教育法附則第９条関係教科用図書について」のとおり、今年度と同じ日本文教出版「中学道徳　あすを生きる」を採択することといたしたいと思いますが、異議はございませんか。

（各委員「異議なし」の発言あり）

岡田教育長

異議なしと認めまして、中学校の道徳につきましては、日本文教出版「中学道徳　あすを生きる」を採択することといたします。

次に、中学校「特別の教科　道徳」を除く中学校教科用図書について協議をしていきたいと思いますが、よろしいですか。

（各委員「異議なし」の発言あり）

岡田教育長

それでは、これから質疑を行います。何かご質問はございますか。

武内委員

先ほど加藤部長からお話がありましたけれども、平成２７年度に採択したこの教科用図書で、全体的に見渡して、学校で教える教員にとって、指導しやすい教科書と言えるんでしょうか。ちょっとそのあたりをお話しいただけたらと思います。

尾﨑学校教育推進課参事

どの教科書につきましても、指導しにくいということは聞いておりません。

例えば、国語でいいますと、系統立てて編さんされていること、そして学び方が示されていることが、教員にとっても生徒にとっても使いやすく、また、読書活動につながりやすい教科書だということも聞いております。

片山委員

今、教える側の先生にとっても、あるいは生徒にとっても使いやすい教科書だというようなお話でしたが、生徒さんのほうから、実際使われてる生徒さんの立場から見て、今の教科書について何かお聞きになっていることがありますでしょうか。

尾﨑学校教育推進課参事

例えば、家庭科では、教科書の特徴として実習例などがわかりやすく示されているということがあったんですけれども、生活での経験が少ない生徒さんにとっても、とてもわかりやすくて、また意欲的に学習することにつながっているというふうに聞いています。

堀村委員

新しい学習指導要領の実施に向けての移行期という形になっておりますが、その対応のために心配なところはないでしょうか。

尾﨑学校教育推進課参事

新しい学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学びによって、資質・能力の育成を目指す」ということになっております。現在使用しています教科書でもそのあたりは十分ではないかと考えております。

例えば、数学を見ましても、ただ単元のことを教える、学ぶだけではなくて、数学への興味関心が深められるような内容がたくさん入っておりますので、意欲的に学ぶということにつながっております。また、まとめの問題も充実しておりまして、学びを深めるということにもつながっていますので、今の教科書で十分対応できるのではないかと考えております。

岡田教育長

よろしいでしょうか。

ほかに何かご質問ございませんか。

篠永委員

私のほうからは、意欲的な学びにつながっているということでございますが、それぞれの教科で選ばれている教科書の特徴を生かして、どのような授業が展開されるようになっているんでしょうか。例えば、ここで言うと英語などは以前の三省堂さんから、現在は開隆堂さんにかわっていたりというところなんですけど、どうでしょうか。

尾﨑学校教育推進課参事

英語の教科書の特徴の一つとしましては、コミュニケーション力を養うという面で内容が充実していることでした。今、これからの社会で必要な力を身につけることができるようにという意味でも、そういう構成になっておりますので、生徒同士のやりとりなど、言語活動中心の授業づくりを行う上でも、とてもよいというふうに聞いておりますし、実際私が見に行った授業の中でも、そのような展開をしている学校がありましたので、特徴を生かした授業を行っていると考えております。

岡田教育長

それでは、質疑を打ち切りましても異議ございませんか。

（各委員「異議なし」の発言あり）

岡田教育長

異議なしと認めまして、質疑を打ち切ります。

ただいまより、各委員の賛否及び意見を求めます。

（各委員「原案賛成」の発言あり）

岡田教育長

各委員のご意見は、原案に対して賛成であります。

本件は、原案のとおり決することに異議ございませんか。

（各委員「異議なし」の発言あり）

岡田教育長

異議なしと認め、中学校の道徳を除く中学校教科用図書につきましては、別表第１「令和２年度使用中学校教科用図書採択一覧表及び学校教育法附則第９条関係教科用図書について」のとおり採択することといたします。

次に、小学校教科用図書について協議をしていきたいと思いますけれども、種目ごとに論議する前に、何かご意見はございませんか。

篠永委員

種目の詳細な選定協議に入る前に、各教科、各者のユニバーサルデザインにかかわることと、学習者用のデジタル教科書っていうのは、今年の各者とも非常に特徴が凝っていた、工夫を凝らしてるところがあったかと思うんですけれども、その辺に関しては、どのようにお考えになっているのか。ちょっと確認しておきたいと思っておりますので、いかがでしょうか。

岡田教育長

その辺いかがでしょうか。読んでおられて。

武内委員

ユニバーサルデザインということですけれども、それに関しては、障害の有無、それからその他の特性の有無にかかわらず、児童にとって読みやすいものになっているかを検討する必要があるなというふうに思います。そのあたりで見てみまして、見やすいフォントや大きさにするなど、ユニバーサルデザインフォントについて配慮されているなというふうに感じました。

岡田教育長

ほかにどうでしょうか。

片山委員

各者の教材を拝見させていただいておりまして、その中でカラーユニバーサルデザインというのがありますが、色の見え方が若干異なって情報が伝わりにくいというような方もいらっしゃいますので、その方に対してどういう対応をしてるかということを見させていただきましたが、色彩、色覚の特性に配慮した色を使われたり、あるいは色だけではなくて、デザインでそのあたりの伝わり方の工夫をする、こういった配慮が見られました。

また、レイアウトも、明確になるようにわざわざ枠で囲んだり、あるいは境目がわかりやすくなるようにといったような気づかいといいますか、そういう配慮がされているように思いました。

岡田教育長

ありがとうございます。ほかにどうでしょうか。

堀村委員

私もユニバーサルデザインに関する各者の取り扱いを確認させていただきましたけれども、各者それぞれカラーユニバーサルデザイン機構のマークをつけているものとか、色覚問題の研究者に校閲を依頼しているものとか、特別支援教育の研究者に校閲を依頼しているものなどの小さな違いはありましたけれども、おおむね各者とも配色やデザインの検証を行われており、ユニバーサルデザインについても配慮されてるように感じました。

岡田教育長

ありがとうございます。ほかにどうですか。

武内委員

もう一つの課題の、学習者用デジタル教科書に関することですけれども、これについ

ては、各者ともおおむね各教科で作成されていると聞いております。本市では、各教室に大型ディスプレイの配備も整っていますので、そのあたりを活用して、効果を期待できるなというふうに思いました。

岡田教育長

今、デジタル教科書についてご意見をいただきました。ほかに特にございませんか。

片山委員

世の中ではデジタル化が非常に進んでおります。今回の教科書を拝見させていただきまして、多くの教科書でＵＲＬとか、あるいはＱＲコード、こういったものが各所に掲載されておりまして、この扱いについてはどのように考えたらいいのかなということで、ちょっとお聞きしたいと思います。こういうコードを家庭で使う場合、例えばスマホとか、あるいはタブレットで読み取って、自宅で学習するという場合、そういう面では非常に便利だなというふうに思いました。

岡田教育長

そこに対してはいかがですか。

篠永委員

特に、今回教科化された英語は、片山先生がおっしゃるようにＵＲＬ、ＱＲコードなどがあると、まさに視聴覚的なオーディオビジュアルとしては、繰り返し、ネイティブないしはそれに相当する発音が上手な視聴覚的な教材を繰り返し使用できるということで、非常にメリットがあると思いますし、繰り返すことによって身近なもの、身につけるものへとなっていくのかなと思うんですけれども、家庭にその環境がないっていう場合もあるかもしれませんので、その点の配慮は個別に、あるいはクラスとして対応するっていう配慮は、何がしかやっぱりいるのかなと考えます。

岡田教育長

ほかに何かご意見ございませんか。

今出た、ユニバーサルデザインに関する配慮と、それから学習者用のデジタル教科書

等に関することにつきましては、教科書を全部見ていただいて、確認をしていただきましたので、そのことを踏まえて、これから各種目の採択を行っていくということにしたいと思うんですけれども、どうでしょうか。これらについては共通ということでよろしいですか。

（各委員「異議なし」の発言あり）

岡田教育長

それでは、今ご意見いただいた部分を踏まえて、各種目の採択を行っていきたいというふうに思います。

では、これから種目ごとに協議をしていきたいと思います。

まず、国語についてでございますが、選定委員会では、東京書籍、教育出版、光村図書出版の３者が選定されております。教育委員会として、まず選定外となりました学校図書について協議をいたします。各委員のご意見をお願いをいたします。

篠永委員

今回選定外になりました学校図書でございますが、４年生の、例えば点字のページが、実際に触って凹凸があって、点字ってこんなのだよっていうところが、国語っていうのも漢字や片仮名、平仮名だけが文字ではありませんので、そういうところが触って分かるっていうのは非常によかったんですけれども、私が思いますに、目標とか手引きが若干シンプルなつくりになっていて、やはり紹介図書の冊数が一番少なかったのではないかなという印象です。

岡田教育長

各委員のほうでほか特にございませんか。

今、篠永委員のほうから２点についてお話をしていただきましたけど、各委員のご意見は、選定外の学校図書については採択の対象としないことが適切であると考えますが異議ございませんか。

（各委員「異議なし」の発言あり）

岡田教育長

それでは、学校図書については選定外ということで、選定された東京書籍、教育出版、光村図書出版の３者について協議をいたします。この３者の中から、採択する発行者を決めていきたいというふうに思っています。

まず、東京書籍について、各委員のご意見をお願いいたします。また、３者について合わせたご意見でも構いませんので、お願いいたします。

篠永委員

今先ほど点字の話をしたんですけど、点字という観点でちょっと比べてみました。やはり先ほども申しましたけど、点字っていうことに触れるっていうことが、障害を持たれた方との共生の第一歩であって、身近に一回触ってみるということは非常にいいのかなと考えておりまして、しかしながら、東京書籍は、３年生に点字のページが確かにあるんですけど、２次元で終わって凹凸がないところがちょっと残念だったかなと思います。

教育出版さんのほうは、４年生に点字のページがあって、実際にこれを触ってみることができて、やはり触ることによって、こういうものなんだなっていうのがわかって非常にいいのかなと思いましたし、光村図書さんも５年生に点字のページがあって、こちらも同様に凹凸が実際のようにあるっていうことでよかったかなと思いました。

岡田教育長

ありがとうございます。ほかにございませんか。

武内委員

国語ですので、いろんな物語っていうのが、どの発行者も工夫を凝らして取り上げられていると思います。定番というか、昔からずっと取り上げられているお話もあれば、また新しい取組というか、そんなお話もいろいろ考えて配列されていると思うんですけれども、私が見ていまして、物語文の構成上すごくいいなと思ったのが、特に一つ例を挙げますと、「ごんぎつね」のお話で、これはもう過去から、子どもたちもとっても興味を持って引き込まれながら学んでいくものなんですけれども、特に東京書籍

については、構成として、ラストの場面でページを変えて、挿絵もとってもいい挿絵を使っていますし、子どもたちの心情に訴えるラスト場面っていうのが、心に残るし、考えさせられるっていう意味で、すごくいいなというふうに思いました。

同じものを比べてみますと、教育出版、光村図書さんは、やはりずっと淡々とお話が続いていって終わるという感じで、その構成っていうのは大切なんだなというふうに感じました。

以上です。

岡田教育長

ありがとうございます。ほかに何か。

片山委員

国語は全ての教科の基礎になるということで、国語力をいかにつけるかということが非常に大事だというふうに思います。小学校に入ってまず導入ということで、１年生の教科書がどうなのかということを、３者について比較させていただきました。３者とも、１年生の教科書については、表紙も含めていろいろ小学校になじみやすいようにということで、いろいろ配慮され、工夫をされていたように思います。

まず東京書籍ですけれど、これは表紙をめくりますと、絵本のような親しみのある子どもたちがまず登場してきまして、言葉のリズムを楽しむ、そういった様子が描かれておりまして、本当に子どもたちが言葉、あるいは学校ということに大変興味を持って学習していけるような、そういう雰囲気を持った導入になってたように思います。

教育出版については、森の中で遊ぶ子どもたちが描かれておりまして、なかなか美しい絵ではございましたが、絵から何かを読み取らせようというようなことだと思いますが、ちょっと導入としては情報量が多くて、子どもたちにとっては難しいかなというように感じました。

続いて光村図書ですが、これにつきましては、遠足に行ってる子どもたちの風景、それが描かれておりました。これも絵の情報量が多くて、少し導入としては難しいかなというふうな感じがいたしました。

以上です。

岡田教育長

ありがとうございます。ほかに特にないでしょうか。

堀村委員

私は、場面に適した声の大きさで話すということが大事かなと思っておりまして、それについて学べる教科書はどれかなという観点で見させていただきました。

東京書籍さんは、１年生の教科書で「こえをとどけよう」という単元がありまして、そのところで、場面に合わせた声の大きさがわかるように設定されて、声の物差しとして巻末にもまとめられておりました。イラストもついてまして、視覚的に子どもたちがわかりやすくなってるかなと思いました。

教育出版さんのほうは、１年生の教科書で「こえの大きさどれぐらい」というコーナーがありまして、そこで場面に合わせた声の大きさをみんなで考えるようになっていました。

光村図書については、そこの声の大きさのところは何も取り上げられていませんでした。

岡田教育長

国語というのは、一つは教材が大切になってくるとありますので、そういうふうに特徴的なものですね。各者の中で、特に本市の子どもたちにとって、これを一番教えたいというか、学ばせたいという、特徴のあるものというのは何かあったでしょうか。どうですか。

武内委員

今の件ですけれども、これからの子どもたちにしっかり考えて生かしてほしいなというふうに思うところで、例えば６年生のインターネットの投稿を読み比べようっていうところで、一つの記事を多面的にとらえて、自分の考えを深めていくっていうんですか。一方的な考えだけでそれを受け入れてしまわないで、いろいろ考えてみようっていうふうなことを深めていることができるようになってるなという感じを持ちました。

篠永委員

本市のっていう観点で、この３つの発行者を見比べますと、茨木市っていうのは結構本に親しもうということで、図書館の教育っていうことに極めて熱心に取り組んでいるところであります。３者とも、もちろん取り上げてはいるわけなんですけども、よりページを割いて、図書館の中がどうなってるかとか、そういう挿絵なんかも入って、図書館ってどういうとこなのっていう説明も含めて、一番やはり丁寧に利用方法に踏み込んだ記載があるのは、東京書籍かなと思うので、先生方も授業の展開、図書館・本というところに折に触れて、やはり教材として使いやすいのかなという気がします。

岡田教育長

ありがとうございます。ほかに特にご意見ございませんか。

お聞きしていると、３者ともいい部分がたくさんありますけれども、先ほど最後のほうで言われた部分も含めて、ご意見の中では、東京書籍のほうが、この中でよりいいのではないかという意見がありましたけれども、そのあたりはどうでしょうか。

（各委員「異議なし」の発言あり）

岡田教育長

それでは、各委員のご意見を伺いながら、点字の部分は少しマイナス部分もあるというふうにもありましたけど、全体的なお話の中から、国語については、東京書籍を評価する意見が多かったように思いますので、採択する発行者を東京書籍に決めたいと思いますが、よろしいでしょうか。

（各委員「異議なし」の発言あり）

岡田教育長

それでは、国語につきましては東京書籍を採択することといたします。

続きまして、書写についてでございます。選定委員会では、教育出版、光村図書出版、日本文教出版の３者が選定されております。教育委員会としては、まず選定外となりました、東京書籍、学校図書の２者について協議をいたします。各委員のご意見をお

願いいたします。

片山委員

それでは、私のほうから、東京書籍についてですが、この内容ですが、ページを開いていただきますと、最初のほうですが、鉛筆の持ち方ということがあらわされております。なかなかきちっと持てない子もおりますが、左右どちらの利き手の人にもわかりやすいように、そういう配慮をされた写真とか、持ち方の説明とか、そういうのもございました。

また、字を一筆一画ごとに色分け分解して、色分けしてわかりやすいように提示されておりました。このあたりについては、東京書籍さんはよかったかなというふうに思います。

岡田教育長

ほかはどうでしょうか。

堀村委員

東京書籍さんについて、内容が充実していて、美しい文字の書き方の鍵というのがたくさん記載されてるなと思ってはいるんですけれども、ちょっと小学生にとっては内容が多くて、少し難しいんではないかなと思いました。

岡田教育長

ほかどうでしょうか。

篠永委員

学校図書さんのほうですけれども、毛筆の教材で二文字のお手本のときに、見開きで載っていて、回転させると現物の半紙の大きさになるっていうような体裁になっていて、そのままお手本として横に置いて書くっていうことができるというところが、非常にいいレイアウトになってたかなと思うんです。表紙も子どもが興味を持ちそうだったかなというところはあったとは思います。

岡田教育長

ほかご意見どうでしょうか。

堀村委員

学校図書についての内容面を確認したんですけれども、イラストが多くて親しみやすいというところはあるんですけれども、その分内容が少し薄くて物足りない感じがするなという印象を受けました。

岡田教育長

ほかどうでしょうか。

いい面も悪い面もあるということですが、内容の部分ですね。そのあたりも含めて、ご意見をお伺いしたということで、選定外の東京書籍、それから学校図書の２者について、採択の対象としないことが適切であると考えておりますが、よろしいでしょうか。

（各委員「異議なし」の発言あり）

岡田教育長

それでは、選定された教育出版、光村図書出版、日本文教出版の３者について協議をいたします。３者の中から採択する発行者を決めてまいります。

まず、教育出版について各委員のご意見をお伺いいたします。

３者について合わせたご意見でも構いませんので、お願いします。

片山委員

私のほうからは、教育出版、光村図書出版、日本文教出版、この３者について共通して感じておりますことを述べさせていただきたいと思います。

子どもたちの日常生活、あるいは学校生活において、いろんな書き物をするわけですが、３者とも、そういう例をたくさん掲載されてると感じました。例えば、日常生活に関してでしたら、手紙とかはがきの書き方とか、そして学校におきましては、学校新聞とかポスターとか、あるいは作文とか観察カード、こういった例をたくさん掲載

していただいておりまして、すぐにでもそれを参考にして活用できる、そういう工夫が３者ともされてるという、こういう面でなかなかちょっと甲乙つけがたいなと思いまして、３者を評価したいというふうに思います。

篠永委員

３者の比較ということで、片山先生から、生活の場面に、どのように書写が関わっているかっていうところの観点でお話しいただいたと思うんですけれども、全教科そうなんですが、私の視点の一つとして、その対象の教科がほかの教科とどうリンクしてるかっていうところが、今回の教科書のどの教科を選ぶところでも、やはり多様性に対応していくっていう中で、一つのフォーカスになるのかなと思ってまして、そういう観点から、文字の歴史っていうのは小学校６年生であるんですけれど、これはやっぱり書写っていうのが、歴史を学ぶきっかけであったり、文化を学ぶきっかけであったり、そういうリンクをして、どう各者がつくりこんでるかなっていうところを見ていました。

光村図書さんっていうのは、６年生なんですけども、文字の歴史っていうところで、歴史的な流れとか、文字の変化について、甲骨文っていうところで取り上げていて、一番わかりやすかったし、大きく取り上げていたと思います。例えば、比べるっていう比較の「比」という漢字と、平仮名の「ひ」がどうなっていくかっていうようなところが、丁寧に書かれていたかなと思います。

教育出版さんは、表紙をめくったとこに確かあったと思うんですけれど、文字の旅っていうのがありまして、ただ残念ながら甲骨文については触れられてなかったのかなと思っておりますし、文字の変化、漢字への変化、平仮名への変化っていう記載がちょっと小さかったかなという印象です。

日本文教さんのほうは、平仮名と片仮名ができるまでというところで、それと同じようなところが学べるようになってるんですけど、日本文教出版さんは漢字以外でも、ヒエログリフであるとか、楔形文字とか、インダス文字っていうのは、取り上げてはいるんですけども、一貫したちょっと歴史的な、日本の漢字の歴史っていうところに関して言えば、光村図書さんには、ちょっと劣っていたのかな、わかりにくくなっていたのかなっていうところでございますので、漢字の流れっていうところでの記載のまとまり方、学習のしやすさっていうところ、プラス他教科へのリンク、結びつく取

っかかりっていう、興味を倍増していくといいますか、この教科もおもしろそうっていうような、わくわくするような感じのところが光村さんだったんじゃないかなということを思っております。

岡田教育長

ありがとうございます。ほかはどうでしょうか。

武内委員

最近、文字を書くときも、どうしても寝そべって書くような姿勢になるというふうなことで、気になる子どもたちが多いと思うんですけれども、そのあたり、やはり１年生のときから正しい姿勢で書けば、いい文字が書けるよっていうふうなところをどの発行者も力を入れて、１年生のときにきちっと、姿勢正しく書けるようにしようっていうところに力を入れてらっしゃるなっていうのは思いました。

その持っていき方が、教育出版では「学校の文字探検」であったり、光村さんのほうは「書写体操」であったり、それから日文のほうでは「文字を探そう」というふうな取り組みであると思うんですけれども、その中で特徴的だなと思ったのは、やはり書写体操っていうのが結構おもしろいな、子どもたちがまねしてやってみるっていう感じがするなっていうふうに思いました。

それからまた、１年生が入学するまでに、自分の名前が書けるようになればいいよっていうことを、今常々言っているわけですけれども、自分の名前が書けるというふうなことについては、とても子どもたちの学習意欲をかき立てるっていうことにつながると思います。そんな形を取り入れているのが、光村図書で、そのあたり、ほかにはちょっとなかったと思いますので、そのあたりで光村図書のものがよかったなっていうふうに思っております。

岡田教育長

ありがとうございます。ほかはどうでしょうか。

堀村委員

３者とも内容面は適当な内容で甲乙つけがたいかなと思うんですが、その中でも特に

光村図書については、情報に軽重がつけられていて、書面がすっきりしているので、小学生にとって大事なポイントが学びやすいかなと感じました。

岡田教育長

ありがとうございます。今まで各委員からご意見をお伺いした中で、ほかに意見などよろしいですか。

一応書写については、各委員のご意見の中では、光村図書を評価する意見が多かったというように思います。

採択する発行者につきまして、光村図書に決めたいと思いますが、よろしいでしょうか。

（各委員「異議なし」の発言あり）

岡田教育長

それでは、書写につきましては、光村図書出版を採択することといたします。

続きまして、社会でございますが、社会については、選定委員会では、東京書籍、教育出版、日本文教出版の３者が選定されております。

社会の発行者は３者だけでありますので、３者について合わせて協議したいと思います。各委員のご意見をお願いいたします。

片山委員

それでは、私のほうからですが、最近新聞を見ておりましても、日本の近隣の国との関係ですね。日本の国土とか領土について、いろいろ問題があるということで取り上げられてるケースが多くございます。そういう国土・領土につきましては、５年生の教科書で扱われておりますけれど、歴史的な背景もありますし、現状がどういうふうになってるかとか、そのあたりについて、きっちりとしたものが子どもたちに教えられるかどうかということが、非常に重要な点になってくると思います。そのあたりで３者をちょっと比較させていただきました。

東京書籍ですが、その辺の説明については、非常に一番あっさりと、情報量も若干少ないかなというような印象を受け取ったわけです。２番目の日本文教出版ですが、東

京書籍さんよりは詳しく記述もされて、資料も載っていたように思います。もう一つの、最後に教育出版でございますけれど、前２者に比べましても、非常に資料が詳しく、国土・領土に対する関心が非常に深まるような、理解が深まるようなそういうような内容だったというふうに思います。そういう面で教育出版さんのものが、そのああたりに関してはよかったかなというふうに感じております。

以上です。

岡田教育長

ほかにどうでしょうか。

篠永委員

領土、歴史的なことを含めてっていうところだったと思いますが、社会的背景もそうなんですけど、今現実的な世の中として、社会の教科に、情報という視点からどうアプローチして子どもたちに教えていくかっていうところ、情報は本当に巷にあふれているわけで、そういう観点で３者を見てみると、少し違いが出てくるのかなと私は思ったので、ちょっとお話しさせていただきますと、ただ、この情報に関する分野、キーワードっていうのが、新し過ぎて教科書の授業で取り扱うとなるとっていうと、なかなかどこまで発展して教えたらいいかっていうところ、各者のいろいろお考えがある中で、違いがあっておもしろいかなと思ってます。

例えば、東京書籍さんは、ＡＩ、人工知能っていうキーワードで見てみますと、その記述が確かにあって、選択というわけではなくて、必修的な要素で扱っておられるっていうところが非常に評価できるのかなとは思います。

そして、教育出版さんのほうは、ＡＩの記述があるのはいいんですが、これは言葉の使い方になるんじゃないかなと思ってるんですけど、大量の情報っていう、情報のところに記載があるんですけど、大量の情報っていうのは、やはりみんなビッグデータって言われたほうが市民権を得ているのかなと思うので、そのあたりの記述の仕方っていうのが、ちょっと残念だったかなと思ってます。

日本文教さんは、Ｉｎｔｅｒｎｅｔ　ｏｆ　Ｔｈｉｎｇｓといって、ＩｏＴっていうのが、今、キーワードの一つかなと思うんですけれども、そういうことも触れておりますし、案内する人のかわりをＡＩとしてするロボットの紹介であるとか、私の職業

の領域で言えば、近い将来、数年以内かそこらにはなるであろう、医療に情報ネットワークがどう生かされていくかっていうことが、割とページを割いて、具体的に書かれていて、将来、医療の情報はこういうふうに使われて、情報共有していくのかっていう、実際に今起きつつある、もうちょっとしたらすぐにそうなるっていうところまで踏み込んで解説して、わかりやすく教えていただいてるのが日本文教さんで、より扱い方が丁寧であったり、具体的な例としての教材として書かれていたのかなと思います。いかがでしょうか。

岡田教育長

ありがとうございます。ほかにそれ以外で何か気になる点とかございましたら、お願いしたいというふうに思うんですけど、どうですか。

片山委員

今朝のテレビでニュースを見ておりましたら、新しい参議院議員の方が初登院される、そういう姿が映されておりました。東京書籍さんの６年生の政治国際編の中で、国会の働きの記述という、そういう中の資料で参議院の定数を２４２人というふうにしておられました。

昨年７月の公職選挙法の改正に伴いまして、定数が２４８になったわけですが、先月に選挙が行われて、新しい議員が決まったということで、こういうことにも関わらず、注釈に、法改正で増える予定という、そういう文言はありますけれど、このあたりの事実関係からして、若干ふさわしくない記述かなというふうに感じております。

以上です。

岡田教育長

ほか、特に気になる点はございませんか。

堀村委員

６年生の教科書で、各者とも憲法が取り上げられていまして、小学生にわかりやすいように、憲法原文ではなく、要約したものが載せられているんです。そのこと自体はいいことだと思うんですけれども、教育出版さんのほうは、要約した文言を本文のほ

うで取り上げて、児童が何々と書かれてるねというふうに発言して、それを議論させるような形になっていますので、ちょっと気になるかなと思いました。

岡田教育長

ほかどうでしょうか。

武内委員

今、防災とかいうことに、すごくどの市も、日本全体で取り組んでいると思うんですけれども、日本文教出版の４年生のところに取り上げられている災害対応っていうことが、とても写真も上手に、上手にって言ったら失礼ですけれども、うまく組み合わせられてわかりやすいと思います。状況がわかりやすいし、そのときそのときの状況が子どもたちにもしっかりとつかめる、そして、自分たちが今後どういうふうに動いていって、どんなふうに役立てていったらいいのかというところまで考えさせられるように掲載されているのはいいなっていうふうに思っております。

篠永委員

武内先生が災害対策のことにお触れになったと思うんですけれども、わかりやすい写真がたくさん日本文教さんにはあったと思いますので、その情報の資料としての新旧ですね。災害の教育っていうのは、あんまり去年起こったこと、我々は大阪北部地震の被災者でありますし、それに続く西日本豪雨なんかがあったりして、そのときの題材だったらあまりに新し過ぎて、子どもたちへの影響を考えるとっていうこともある中で、日本文教さんのほうは、確か平成２６年だったと思います、広島豪雨を教材として取り上げてるっていうことで、古過ぎず、でき得る限り新しい、適切な教材が入っている、選ばれているご努力があるんじゃないかなと、私はくみ取りました。

岡田教育長

いろいろご意見をいただきましたけど、ほかに特にないでしょうか。

堀村委員

どういう学び方をしていけばわかりやすいかなというところに関して、ちょっとご意

見いただきたいんですけれども、各者とも、多かれ少なかれ子どもが考えを述べ合う、会話自体が本文に取り上げられていて、子どもが主体の本文構成を取り入れておられるんですけれども、その中でも日本文教出版さんは、それが徹底しているように私は思っております。

子どもにとって、それがわかりやすいのかどうかというところについて、ご意見いただければと思います。

片山委員

確かに、日本文教さんの構成が、本文の中でいろいろ子どもたちに会話をさせるという内容になっていたと思います。新しい学習指導要領で、主体的あるいは対話的で深い学びを追求するというようなことで、どの発行者もそういう方向で編集されてるんだというふうに思います。子どもたちの疑問であったり、気づいたこと、あるいは内容をさらに補足的に説明する、そういった言葉が差し込まれていたように思います。

東京書籍さんですが、３者の中では一番子どもたちの言葉は少なくて、６年の歴史編を読んでおりましても、なかなか本文がまとまっておりまして読みやすいということで、対話部分が少ないということで、すらすらと読みやすいと。こういう逆の効果があったように思います。

続いて、教育出版ですが、子どもたちの言葉の量という面では、一番適当ではなかったかなというふうに思います。その会話に関しましても、本文ではなくて、本文の外に吹き出しの形で出すなど、いろいろ工夫をされていたように感じます。

日本文教出版ですが、先ほどご説明のように、子どもたちの言葉が一番多いということで、子どもたちに考えさせたいということなんでしょうが、逆に言いますと、子どもたちに考えてほしいということまで、ちょっと言い過ぎてるような、そういうようなきらいもありまして、子どもたちの思考がこれで深まるのか、あるいは妨げになるのか、若干そういう懸念を感じたように思います。そういう会話が多いということなので、なかなか本文を通してすらっと読みにくいということで、その教科書のストーリーがなかなか頭に入らないと、こういうような感じを私はいたしました。

岡田教育長

ありがとうございます。ほかはどうでしょう。

篠永委員

どのような構成が、子どもたちの社会科を学ぶのにいいのかっていうところで、片山先生がおっしゃったのは、少し日本文教出版に関するところが弱いかなというご意見だったかなと思うんですけども、私は逆に、ちょっと先生のご意見とは違うんですけども、その対話っていうところ、ディスカッションをしてるっていう、机を合わせたところの場面が多くて、やはりみんなで話をしようっていう、単なる吹き出しっていう意味じゃなくて、仲間、グループで、班で話をするっていう、そういうところが前面に出ているのかなというのが、日本文教さんだったかなと思います。

ちょっと誘導的なっていうご意見も、今お聞きしたんですけども、そのとり方もいろんな直球であったり、カーブであったり、疑問文であったりっていうふうないろんな聞き方で、画一的ではなかったんじゃないかなとは思っておりますので、そういうみんなで話をするっていう視点からいうと、日本文教さんが一番多くて、よかったかなっていうのが私の印象です。

岡田教育長

ありがとうございます。ほかはどうでしょうか。

武内委員

片山先生のおっしゃるように、会話がたくさん入ってるなというのは、確かにそう思いますが、その会話をうまく、この人はこういう考え、この人はこういう考えっていうふうに整理しながら取り組んでいくっていう意味では、うまく使えばいいのかなっていうふうに思います。本市が、どの教科でも大事にしています、課題解決型の学習ということで、ほかの教科でも同じような流れ、課題があって、それに対して子どもたちが自分たちで解決していくという、そういう学習方法とつながるかなと。うまくつなげていくことができるかなというふうに思いますので、会話が多過ぎて困るということではないように思います。この日本文教出版の課題解決型の学習という意味では、とても取り上げられやすいなっていうふうに、いい面だと思っております。

岡田教育長

ほかにございませんか。

私のほうからも、これから進めていかなければならない教育というのは、やっぱり主体的で対話的で深い学びと、子どもたちが、誘導されるんじゃなくて、自分で考えて勝ちとっていくというか、そういう部分が学習の中の定着というふうには思っています。そういう面では、教育出版さんは違う意見を対比させて、こういう意見もある、こういう意見もあるという、そういうふうな意味が多分あるとは思うんですけれども、さまざまな形でほんとに考えさせていて、どの部分がいいかというのは、なかなかこの３つの教科書の中から選ぶのは難しいのかなとは思ってますけど、一つの授業スタイルというか、これからをつくっていく中では、この教科書の中である程度キャッチボールがあればなというふうには思っています。そういう面では、吹き出しもいろいろ見てみたんですけど、日本文教出版のほうが、吹き出しの中の部分で言えば、ある程度的を得た部分もあったかなというふうには思ってます。ただ、なかなか全体的に判定しにくいような部分もございますけれども。

今、ちょっとお聞きしてる中では、マイナス面で言えば、東京書籍と文教出版といろいろあったり、それから教育出版のほうにもいろいろちょっとあって、いい点と悪い点、特にあると思うんですけども、今、私の中ではいい点が多くあるというのが、逆に言えば、気になる点が少ないという言い方になると思うんですけども、日本文教出版のほうかなっていうようには、今お聞きしてそう思うんですけども、そのあたりはどうでしょうか。

片山先生はどうですか。先ほどご意見がありましたけど。

片山委員

確かに、新しい主体的・対話型の学習方法が取り入れられるということで、学校のほうでそのあたりうまく子どもたちの対話をどういうふうに活用していくかを考えていただいて、確かに、対話の中で深い学びというのは生まれると思いますので、そのあたりのやり方ですね。その点を十分工夫していただければ、それについてはクリアできるかなというふうに思います。

岡田教育長

それでは、質疑を打ち切ります。よろしいでしょうか。

（各委員「異議なし」の発言あり）

岡田教育長

社会につきましては、各委員のご意見を伺って、それぞれマイナス面とプラス面のご意見を言っていただきましたけども、最終的に日本文教出版を評価する意見が多かったというふうに思いますので、採択する発行者を日本文教出版と決めたいと思いますけれども、よろしいでしょうか。

（各委員「異議なし」の発言あり）

岡田教育長

それでは、社会につきましては日本文教出版を採択することといたします。

続きまして、地図については、選定委員会では東京書籍、帝国書院の２者が選定されております。

地図の発行者は２者だけでありますので、２者について合わせて協議をしていきたいというふうに思います。各委員のご意見をお願いいたします。

片山委員

東京書籍さんと帝国書院さんの２者でございますが、東京書籍さんの地図をパッと開いてみますと、非常に色のトーンが濃いということで、特に山間部なんかを見ておりますと、非常に濃くて、地名が見づらい、文字が判読しにくいというような感じがいたしました。とてもちょっと見にくいなというような感じです。

その点、帝国書院さんの地図ですね、色合いも非常に落ちついておりまして見やすいし、また特に京阪神の大きな地図も入っておりまして、日ごろの勉強に使いやすいと、こういう面もあっていいかなというような感じです。

以上です。

岡田教育長

ほかどうでしょうか。

篠永委員

見やすさということのお話でございましたが、文字とか色の使い方以外に、パッと見て視覚的にやはり図などの視点から比べてみますと、どちらももちろん取り上げられているんですけど、領土とか、領空、領海のところを比べてみますと、やはり見てパッと違いが図としてよく示されているのが帝国書院さんだったんじゃないかなというふうに思っています。

岡田教育長

ほかはどうでしょうか。

堀村委員

地図帳に関しては３年生から使うということで、初めて地図帳を扱うというところを念頭に、使い方が丁寧に書かれているほうがいいなという観点から見させていただいたんですけれども、帝国書院さんのほうが東京書籍さんのものよりも使い方の記述がとても丁寧でわかりやすいなと感じました。

また、３年生から使うということもはっきり書かれてまして、その点でもいいなと感じております。

岡田教育長

ほかはどうでしょう。

武内委員

ちょっと気になった点を、それぞれにお話させてもらいます。

東京書籍の、アフリカに生息する動物というのが、写真もあるんですけれども、とても上手な、リアルなものが絵で書かれているっていうのが、これって写真はなかったのかなと気になった部分ではあります。

それから、帝国書院のほうは、ほかの国はそうでもないんですが、アメリカ合衆国が州ごとに詳しく色分けされていて、とっても詳しく、日本とつながりが深いということを意識されてるのかちょっとわからないんですけども、どうしてアメリカ合衆国が

そういうふうになっているのかなというのは気にはなりました。

岡田教育長

ありがとうございます。

私のほうも、帝国書院さんのほうを見させていただいて、真上から見た写真と、それから真横から見た写真と、斜めから見た写真を落として地図ができてるという、地図の成り立ちというか、どんな感じでできてるのかなというのが、すごく都市部のところが多分写ってたと思うんですけども、その部分がすごくわかりやすい使われ方で説明をされていたかなというふうには思っています。

ほかはどうでしょうか。特にないでしょうか。

（各委員「異議なし」の発言あり）

岡田教育長

それでは、今、２者についてお話を聞いてると、これもいい面と悪い面とがありますけれども、よりよい点が帝国書院さんのほうが多かったということで、評価する意見が多かったと思いますけれども、選定する発行者を帝国書院さんに決めたいと思いますが、どうでしょうか。

（各委員「異議なし」の発言あり）

岡田教育長

それでは、地図につきましては、帝国書院を採択することといたします。

続きまして、算数について、選定委員会では、東京書籍、大日本図書、日本文教出版の３者が選定されております。

教育委員会として、まず選定外となった、学校図書、教育出版、新興出版社啓林館の３者について協議をいたします。各委員のご意見をお願いいたします。

武内委員

学校図書の分なんですけれども、これが一番気になったんですけれども、４マス関係

図というのが使われていて、数量的な量感を感じないで、ただ単に機械的に当てはめただけで答えが出てしまうというふうなことがとても危惧されて、算数としてどうなのかなっていうふうに感じております。

岡田教育長

ほかはどうでしょうか。

篠永委員

私のほうは、教育出版さんのほうの新しいやり方の取り組みととらえるのかもしれませんけども、ｘｙの文字式が６年生の最初の単元に来てるっていうその順番が、逆にちょっと初学者にはわかりにくい子も多いんじゃないかなと。逆にそれでｘｙ嫌いになっちゃうんじゃないかなというような気もするんですけれども。

岡田教育長

ありがとうございます。ほかに何かございますか。

片山委員

啓林館でございますが、この教科書の中には、いろいろ吹き出しがありまして、その中で答えが既に書かれている、こういうふうな箇所が幾つもありまして、子どもたちにいろいろ考えさせて、思考をさせるということを、こういったことを若干妨げることになるんではないかと。せっかくの思考力を高めるという目的からすれば、そういういうあまりにも丁寧に、吹き出しに答えを先に書いてしまうというのはどうかなというふうに思います。

岡田教育長

一応３者のところのご意見をいただきまして、マイナス部分というのがあります。各委員のご意見からは、選定外の学校図書、教育出版、新興出版社啓林館の３者について、採択の対象としないことが適切であると考えますけども、異議ございませんか。

（各委員「異議なし」の発言あり）

岡田教育長

それでは、選定されました東京書籍、大日本図書、日本文教出版の３者について協議をいたします。３者の中から採択する発行者を決めてまいりたいというふうに思います。

まず、東京書籍について、各委員のご意見をお願いしたいなというふうに思いますが、どうでしょう。

片山委員

東京書籍さんの１年生でございますけれど、入門期ということに特化した特別のＡ４サイズの別冊が用意されております。見開きで使えるということで、若干大判ですが、実際にブロックを置いて数を数えられるとか、そういうことで入門期の子どもたちにとっては、非常にわかりやすく、算数の世界に入っていけるのではないかというふうに思いました。

武内委員

同じく東京書籍なんですけれども、全体的にこの数としての学習をスムーズに進められるような流れになっていて、とても学びやすいなっていうふうに思いました。

岡田教育長

ほか、東京書籍に関しては特にございませんか。よろしいですか。

大日本図書につきまして、何かご意見ありましたらお願いしたいなと思うんですけど。

堀村委員

教科書の軽量化のために、分冊が進んでるんですけれども、大日本図書さんだけは全学年唯一、各学年ごとに１冊にまとめられてて、分冊になっていないんです。その点重くはなるんですけれども、学年１冊本になってますので、振り返りとか、学び直しがしやすいというよさがあるんではないかなと思います。

岡田教育長

はい、ありがとうございます。

篠永委員

大日本図書さんですけれども、新しい単元っていいますか、新しい分野としてプログラミング学習っていうところがあったかと思うんですけども、大日本図書さんは、それに関するところが全学年に記載されてるっていうところは、よかったかなと思います。

しかしながら、この３者、大日本図書さんも含めてプログラミング学習全体に関しては、私個人としては、ちょっと期待外れだったかなという感じです。何か、プログラミング学習ソフトを使うっていうことに終始したりとか、あるいはプログラミング言語自身も、プログラミング言語で言えば、ｉｆ、ｔｈｅｎっていう、そういう条件分けだけであって、初学者だからそれでいいのかもしれませんけれども、プログラミング学習自身のやはり一番の肝っていうのは、両方比べてどっちが大きいか、あるいは集合っていうことですね。これじゃないこれ、これとこれの共通部分って、そういう集合の概念とか、そういう発想もあって、コンピューターにそれを打ち込むだけではなくて、そういう発想で日常の生活の物事の判断も自分でそういう機能的にしていくっていうところに発展していくべきなんじゃないかなと思ってて、各者残念だったかなというのが、私の素直な感想なんですけど、全学年に関してプログラミング学習を親しみやすいようにという観点からいうと、全学年取り上げられていた大日本図書さんがよかったかなと思われるので、より次回以降練り込んでというか、発展したものであればっていうのが私の願いです。

岡田教育長

ありがとうございます。ほかに大日本図書さんについて、ご意見ございませんか。

それでは、日本文教出版につきましてご意見をお願いします。

武内委員

この日本文教出版の進め方として、問題解決的な学習の過程っていう形をとっていて、うまく学習を進めていく際の着眼点とかいうのも、きちっと明示されていますし、茨木市で今進めている授業づくりというのに、学ばせやすい、とても合った進め方にな

っていると思って、この日本文教出版の進め方はいいなというふうに思っております。

岡田教育長

ほかにありませんか。

片山委員

日本文教出版さんの１年生の教材の巻頭にあります「さんすうのはじまり」、ここでは幼稚園の頃を思い出させるような、そういう写真が入っておりまして、また次の「ともだち」のページでは、数を感じさせるような、たくさんの動物や食べ物、いろんな食べ物が描かれています。こういうことで、非常に１年生の教材の導入としては、ふさわしいものになってるなというふうに思います。

また、現在、日本文教出版さんの教科書が採用されてるわけですが、これまでの全国学力学習状況調査の結果を見ましても、算数についての思考力、活用力、こういうことの育成に十分つながってるんではないかということで、日本文教さん、いい教科書だというふうに思います。

岡田教育長

ほか、特にないでしょうか。

堀村委員

日本文教さんは、取り上げられている題材が学校生活での生活場面と結びつきやすい題材が多く取り上げられてまして、子どもたちにとっても親しみやすく、わかりやすいんではないかなと思います。

岡田教育長

ほかございませんか、特に。

篠永委員

堀村先生がおっしゃったように、生活が学校の場面でっていうことのリンクでわかりやすいっていうのが、日本文教さんっていうことだと思うんですけども、結びつける

ということで言えば、やはり他の教科とのリンクが非常に印象的だったのも日本文教さんだったんじゃないかなと思ってます。どこだったかというと、確かに身近なところで、社会が地図とリンクした地図ですね。地図を使って、実生活、算数がどうなっていってるかっていうような展開も見事でしたし、圧巻だったのは、発展的にピラミッドの高さを算数を使って計算しましょうっていうことで、ピラミッドの高さってどうやって測ってたのっていうことで、算数っているんじゃっていう、そういう気づきが、各教科でひょっとしてこれを見て、茨木の子の誰か一人が考古学者になってもらったらいいななんて思いながら、非常に印象深かった教材だったと思います。

岡田教育長

ほかにございませんか。よろしいですか。

（各委員「異議なし」の発言あり）

岡田教育長

それでは、一応算数につきまして、各委員のご意見をお伺いしますと日本文教出版を評価する意見がだいぶ多かったというように思います。採択する発行者を日本文教出版に決めたいと思いますが、よろしいでしょうか。

（各委員「異議なし」の発言あり）

岡田教育長

それでは、算数につきましては日本文教出版を採択することといたします。

続きまして、理科についてでございます。選定委員会では、東京書籍、教育出版、新興出版社啓林館の３者が選定されております。

教育委員会としては、まず選定外となりました大日本図書、それから学校図書について協議をいたします。各委員のご意見をお願いいたします。

片山委員

大日本図書でございます。理科の実験に当たって、いろいろ手順があるわけですが、

実験の後の考察を見ておりますと、いろいろ登場人物の会話が出されております。本来ならば、考察ということでございますので、子どもたちみずからがいろんな自由な発想で、その実験結果について話し合ったり、いろいろ自分なりの考えを出すと、そういう活動だと思うんですが、かえって逆に自由な考察を妨げるような、そういうような会話が先に出されてるということで、その辺が若干残念だというふうに思います。

岡田教育長

ほかはどうでしょうか。

武内委員

学校図書のほうですけれども、この分については、５年生の初めの単元で振り子を扱っているようです。算数で学習するよりも先に、平均を求めなければならないというようなところがあって、ちょっと矛盾があるかなというふうに思いました。

岡田教育長

ほかは特にございませんか。

今、各委員から、選定外の大日本図書、それから学校図書の２者については、採択の対象としないことが適切であると考えますけれども、ご異議ございませんか。

（各委員「異議なし」の発言あり）

岡田教育長

それでは、選定されました東京書籍、教育出版、新興出版社啓林館の３者について協議をいたします。３者の中から採択する発行者を決めてまいります。

まず、東京書籍について、各委員のご意見をお伺いしますが、３者について合わせて、もしあれば一緒にご意見をお願いします。

片山委員

それでは私のほうから、３者について若干お話をさせていただきたいと思います。

昨年、私たちは大阪北部地震を経験し、その後また大きな台風を経験したわけでござ

います。日ごろからこういった台風などの自然災害に対して、十分子どもたちも知識を持って日ごろからの備えをしておかなければならないと、こういうふうに思います。

その点で、東京書籍さんを見ますと、５年生で台風が扱われ、６年生で地震などの自然災害について詳しく取り上げられています。こういう面ではいいというふうに思います。また、教育出版さんも、５年生で台風、６年生で地震などの自然災害などについて詳しく取り上げられてると、こういう面で続いてよかったかなというふうに思います。最後に啓林館なんですが、この東京書籍、教育出版の２者に比べますと、台風や地震の情報、あるいはこれからの自然災害に対する備えについて、さらに詳しく記述されているということがありました。また、気象情報につきましても、注意報、警報、最近でよく出されております特別警報、こういったことなども丁寧にまとめられておりまして、一番わかりやすく丁寧であったというふうに思います。

岡田教育長

ありがとうございます。

私のほうからも、実験後の考察についてということで、特に６年生の光合成のところを見て、３者で比較させていただいたんですけども、東京書籍さんと、それから教育出版さんのほうは、実験で結果からわかることのみというか、それでまとめをしておられるんですけれども、啓林館さんのほうは、それだけではなくて、つくられたでん粉についても深く考えるというか。その部分が問いかけになってるので、一つの実験からどこまで考えさせるかという部分があるのかなと思います。これから、実験がたくさん増えていく中身になっていて、その中で子どもたちが自分で考えていくという部分で、深くなる部分がいいのかなというふうには思ってます。

ほかはどうでしょうか。

篠永委員

教育長がおっしゃるように、実験に重きを置かれてっていう、まさに、やはり実験室っていうのは、理科の教室なのかなと思うんですけど、実験をすればするほど器具の扱いっていうのが、安全性であったり、メンテナンスであったり、いろいろある中で、３者そういう視点で比較をしてみますと、例えば顕微鏡です。顕微鏡も単眼で見るっていうやつで、初学者は大概単眼でやるわけですけども、東京書籍さんのほうは、み

んな６年生で扱ってたと思うんですが、器具の使い方がまとまって記述はあるんですけども、単眼というのは、例えば左で見たら、右目ではスケッチするために片方で見てるわけで、そのスケッチをするっていうことが、単眼の顕微鏡の一番の機能なんですね、今では。その写真や説明がないっていうところは、少しちょっと弱かったかなと思いますし、教育出版さんのほうは、器具の使い方について、なぜそのように使うかを示してはあるんですけど、そのほかの２者と比べて、まとまってそういう顕微鏡に関してはないっていうことです。啓林さんのほうは、単眼の顕微鏡について、使い方、そして最後の写真がやっぱりここにスケッチの用紙を置いて、鉛筆を持ってる子の写真が載ってて、スケッチするんだっていう大切さが、そこはかとなくわかるということと、発展的に、少し大きく他者さんよりも双眼の顕微鏡についても触れられてたりっていうことで、安全性以外に、何が大事なのか、何でその機械を使うのか、その器具を使うのかっていうふうなサイエンスの本質っていうのがよくにじみ出てるのが啓林館さんなのかなと思ってます。

岡田教育長

ほかはどうでしょうか。

堀村委員

私も啓林館さんが一番いいのかなとは思ってるんですけれども、特に目次が見開きで写真つきで載せられていて、見やすくて、１年間で学ぶことがわかりやすいっていうところがありました。

また、５年生の学習で「生命の誕生」というところを学ぶんですけれども、啓林館の教科書はメダカの誕生から人の誕生を続けて学ぶようになっている構成をとられていて、すごくわかりやすいなと思いました。

岡田教育長

ほかにご意見ありますか。

武内委員

私も、この啓林館の教科書がすぐれてるなっていうふうに思っているんですけれど、

巻末のほうに資料集があって、項目ごとにきちっと整理されていて見やすいなというふうなこと、それから、他教科との関連もきちっと明記されているっていうあたりは、すごく子どもたちにとっても、調べていくのに役立つかなというふうに思います。

そしてもう一つ、これは発展的な課題ということで、全児童がそれについて学ぶというところではないんですけれども、ＱＲコードがあって、その中身なんですけれども、そのＱＲコードを読み取って、動画が出てくるっていうところが、すごくいいなっていうふうに思いました。ＱＲコードを読み取って、その中身が写真であれば、もう教科書に載っていることで、別にそれ以上のことは、発展という意味ではないんですけれども、こちらの分については、読み取ったことと動画とリンクしてるっていうところが、おもしろい取り組みだなというふうに思いました。

やはり、啓林館は理科専門的なそのあたりのところに力入れておられるのかなと思いつつ、読んでいました。

岡田教育長

ほかにはよろしいでしょうか。

意見を全部出していただいたように思いますので、協議をこれで打ち切ります。理科につきましては、各委員のご意見を伺うと、新興出版社啓林館を評価する意見が多かったように思いますので、採択する発行者を新興出版社啓林館に決めたいと思いますが、よろしいでしょうか。

（各委員「異議なし」の発言あり）

岡田教育長

それでは、理科につきましては、新興出版社啓林館を採択することといたします。

次に、生活についてです。選定委員会では、大日本図書、学校図書、新興出版社啓林館の３者が選定されており、教育委員会としては、まず選定外となりました東京書籍、教育出版、光村図書出版、日本文教出版について協議をいたします。各委員のご意見をお願いいたします。

片山委員

私のほうから、東京書籍について、若干お話しさせていただきます。東京書籍ですが、保護者向けに教材の最初のスタートのところで、幼児期につけたい１０の力というものが記載されております。これは、保護者との共通理解のもとで、子どもにどのような力をつけていくかというようなことで、共通理解で育てると、こういう意味でいい内容だったというふうに思います。

ただ、残念なのは、その何分大判サイズで、持ち運びしにくいなと。そのあたりがちょっと懸念だというふうに思います。

武内委員

教育出版のほうなんですけれども、このスタートブックのところで、なかよしの木の絵本を載せていて、安心して授業を進めていけるなというのは、とてもよかったのですが、ただ写真にすごく紙面を割いていて、その分ちょっと、他者よりも内容が薄いかな、少ないかなっていうふうに感じました。

岡田教育長

ほかにどうですか。

篠永委員

私は光村図書さんのほうでお話しさせていただきますと、逆に赤ちゃんのころからではなくて、１年生からの生活の取り組みっていうことで設定してあるのはよかったのかなと思うのですけれども、武内先生がさっきおっしゃったように、教育出版さんとかは写真に紙面を割いているというところだったと思いますが、光村さんは、逆に写真よりイラストが多くて、何か絵本を見てるようなイメージがあるのが、光村さんのカラーをちょっと出し過ぎてるのかなという印象で、何か絵本を見てるような感じでした。

岡田教育長

ほかはどうでしょうか。

堀村委員

私は日本文教出版さんについて述べさせていただこうと思うんですけれども、簡単な手話とか点字が載せられていて、点字については実際に点字を触れることができるというところが、いいなとは思ったんですけれども、「一日の生活を思い出してみよう」というページがありまして、その中でお母さんが家事をして、お父さんが仕事をするという固定的な家族のイメージが書かれてるところが、多様な家族のあり方がある中で少し残念かなと思いました。

岡田教育長

今、それぞれ４者についてご意見をいただきましたけれども、各委員のご意見のほうから選定外の東京書籍、教育出版、それから光村図書出版、日本文教出版の４者について、採択の対象としないことが適切であるというふうに考えておりますが、ご異議ございませんか。

（各委員「異議なし」の発言あり）

岡田教育長

それでは、選定されました大日本図書、学校図書、新興出版社啓林館の３者について協議をいたします。３者の中から採択する発行者を決めてまいりたいというふうに思います。

まず、大日本図書について各委員のご意見をお願いしたいなというふうに思います。

片山委員

それでは、大日本図書について意見を述べさせていただきます。この教科書ですが、表紙に凹凸がありまして、触ってて非常におもしろい感じがいたします。また、表紙の中央にのぞき込めるような発見の穴というのがついておりまして、開きましても、後ろから外側をのぞき込むというようなことで、何か子どもたちに興味を引きつけるような、そういう楽しい体裁の表紙になっております。

それからまた、巻末に学習道具箱というのがありまして、子どもたちの安全、あるいは遊び、身近にある草花や昆虫、遊びとしての折り紙とかおもちゃづくり、さらにはクッキングのやり方など、子どもたちが日常生活でいろんなことを経験したり、見て

知識を増やせるというために、非常に便利な情報が掲載されています。このあたりについて、大日本図書さんはすばらしいなというふうに思いました。

岡田教育長

それでは、次に、学校図書さんについてはどうでしょうか。

堀村委員

生活は理科につながる教科ですので、正しいものに触れて学んでいくことが大切だと思っているんですが、その点、学校図書さんの教科書は、そのような機会が多く提供する工夫ができてるなと感じました。また、写真もとてもきれいで、学びやすいと思います。さらに、実際の学校生活に近い内容が取り扱われているというところも感じました。

あと加えて、野菜の栽培の仕方とかおもちゃのつくり方などが詳しく書かれており、子どもたちが興味を持ったときに、実際に自分でやってみるということができるように工夫をされてるなと思って、いいなと思っております。

岡田教育長

啓林館につきましてはどうですか。

篠永委員

生活っていうと、今の子どもたちの多様な社会、多様性のある社会の中で、学校のクラスの中で健常者はもとより、障害を持った子どもたちと一緒に勉強をしていたり、昨今は日本にルーツを持たないご家族やその子どもが、クラスの中にもいるわけで、そういうような中、多様性をどう受けとめていくかっていう中で、その視点で見てみますと、各者あるんですけど、啓林さんはより多く、外国の方のイラストや写真なんかで、掲載されるページが多いように、そして目につくように思います。そういう観点から、多文化共生っていうところの配慮がよりすぐれているのかなというところと、障害の方のほうへ転じてみますと、車いすのイラストなんかが非常にたくさん載ってるような印象を受けて、ほんとに特別な人じゃなくて、クラスの仲間なんだよっていうようなのが、そういう人がいても別にまちの中で助けようとか、そういうような当

たり前のシーンになるようなイラストの配置になってるんじゃないかなと思いますので、そういった点で啓林さんがよりよかったかなという印象を持ってます。

岡田教育長

そういうような意見、ほかにありますか。特に、生活につきましては、子どもたちの安全というところが割と言われてるんですけど、その安全についての記載のところなんかではどうでしょう、ご意見ありますか。

武内委員

この安全に関してなんですけれども、もちろんどの発行者も大切にしているところだと思うんですが、学校図書のほうは、このページが巻末のほうにあって、どこから始めるということになってくると、啓林館のほうは、スタートブックで扱うことで早い時期から、その学校生活の中での安全というふうなことに意識を向けているという部分で、啓林館のほうが取り上げ方としてはいいのかなというふうに思いました。

岡田教育長

私もちょっと家族の写真掲載という部分で、先ほど選定外のところでありました日本文教出版社にもあるんですけど、この３者を見させていただいて、茨木の子どもたちの中にもさまざまな家庭の状況があると。その中で、教科書を使う中で、どういう写真なりイラストがほんとに一番適切なのかと思いながら、ちょっと見させていただいたんですけど、大日本図書さんのほうは、少し固定的な家庭のイメージの写真とか、メッセージがちょっと入ってたりするので、ちょっとその辺ではマイナスかなというふうに思いました。それから啓林館のほうは、さまざまな家庭背景とか事情を配慮した写真を一応配慮して写真の中で使っていただいてるかなと。だから、家族のイメージだけじゃなくて、もう少しふくらんだ形の写真とか、そういうイメージも含めて掲載していただいてるかなとはちょっと思いました。

ほかにどうでしょうか。特にございませんか。

（各委員「異議なし」の発言あり）

岡田教育長

生活につきまして、今それぞれご意見をお伺いしましたけれども、それぞれ３者につきまして評価するご意見もあったと思います。各委員の最終のご意見を集約させていただきますと、新興出版社啓林館、こちらがさまざまな形で安全とか、家族とかいろんな配慮をされてるというところで、そういう意見が多かったように思っております。

最終のご意見を含めまして、採択する発行者を新興出版社啓林館に決めたいと思いますが、よろしいでしょうか。

（各委員「異議なし」の発言あり）

岡田教育長

それでは、生活につきましては新興出版社啓林館を採択することといたします。

続きまして、音楽について、選定委員会では、教育出版、教育芸術社の２者が選定されております。音楽の発行者は２者だけでありますので、２者について合わせて協議したいと思います。各委員のご意見をお願いいたします。

片山委員

それでは私のほうから、まず１年生の音楽ですが、いろんなリズム楽器がございますけれど、そういうリズム楽器を使っていろんな音を見つけていこうと、こういう単元がございます。教育出版と教育芸術社さんの両方とも同じような内容で取り上げられているんですが、トライアングル、あるいは鈴、タンバリンなど、これの具体的な鳴らし方ですね。非常にわかりやすく説明されておりまして、そういう面で子どもたちの導入である１年生のほうで教育芸術社さんのほうがわかりやすいかなというふうに思いました。

岡田教育長

ありがとうございます。ほかにどうでしょうか。

武内委員

内容的には、それぞれ共通教材があったりとか、日本古来の昔からの唱歌とかも取り

上げられていて、甲乙つけがたいんですけれども、３年生からリコーダーの学習が始まるというところで見ますと、教育芸術社には掃除の仕方、リコーダーの中ですね。唾がたまったときに掃除の仕方っていうふうなことで、楽器を大切にしようとして掲載している、これはいいなというふうに思いました。この楽器だけじゃなくて、いろんな楽器に対して、子どもたちが大切にしていこうというきっかけになっていくんじゃないかなっていうふうに思います。

それから、同じく教育芸術社のほうの裏表紙に各地に伝わる郷土芸能を大切に受け継いでる子どもたちが、どの学年の裏表紙にも紹介されているっていうところが、これもまたいい取り組みだなというふうに思いました。

岡田教育長

ほかはどうでしょうか。

篠永委員

武内先生もおっしゃってるように、ほんとに甲乙つけがたくて、ベリークロースな感じなんですけども、英語の歌っていう観点でちょっと見てみたんですが、というのは、英語が教科になっていくっていうような、英語へのリンク、それから外国との共生、そして外国人、日本の方以外のクラスメートへのリンクというような観点で見てみると、英語の歌ってやっぱり音楽の中で少し視点になるのかなと思うんです。

教育出版さんのほうは、全学年でありますけども、教育芸術社さんは３年以上で英語の歌を取り扱っていて、というのも英語で歌詞が書いてあって、片仮名でそれを振ってるっていうものでございます。例えば６年生ですと、教育芸術社さんはエーデルワイスだったり、非常にオーソドックスなんですけども、教育出版さんは、小学校６年生で２つ取り上げられてて、比較的ちょっと新しくて、Ｔａｋｅ Ｍｅ Ｈｏｍｅ，Ｃｏｕｎｔｒｙ Ｒｏａｄｓっていうやつですね、アメリカあたりに行けば誰でも知ってて、とりあえずこれ歌っておけば受け入れてくれるぞみたいな感じで、親しみやすい歌、比較的新しいと思います。もちろんエーデルワイスも全世界で有名ですけども。さらにいいのは、教育出版さんは、２０２０年の東京オリンピックにちなんだオリンピック賛歌っていうのが英語であって、それを英語で歌うように英語がつづってあって、片仮名もつづってあってっていうふうなところで、より時代にマッチしてるのか

なっていう印象で、教育出版さんのほうが英語の歌の取り上げ方っていうのは、お上手だったのかなと思います。

岡田教育長

ありがとうございます。ほかにどうでしょうか。

堀村委員

２者とも巻末に１年間の学習をまとめたページがあるんですけれども、そちらはどちらが見やすいかなというところでは、教育芸術社さんの振り返りのページのほうが、学習内容をわかりやすくまとめられてるかなと思いました。また、教育芸術社さんは、６年間を通じて音楽づくりというページがありまして、徐々に難しい内容へと系統的に学習できるように設定されてるなと感じました。

岡田教育長

ほかにないでしょうか。特にございませんか。

今ちょっとお聞きしていますと、各委員の中で教育芸術社のほうが評価する意見がちょっと多かったように思います。採択する発行者、教育芸術社に決めたいと思いますが、その辺よろしいでしょうか。

（各委員「異議なし」の発言あり）

岡田教育長

それでは、音楽につきましては、教育芸術社を採択するということにいたします。

それでは、図画工作について、選定委員会では、開隆堂出版、日本文教出版の２者が選定されております。図画工作の発行者は２者だけでありますので、２者について合わせて協議したいと思います。各委員のご意見をお願いいたします。

篠永委員

図画工作ですが、開隆堂さんのほうで、パッと前半のほうですけども、日本の作品、古典的なものとして、やっぱり風神雷神図の写真が大きく、そしてきれいに掲載され

ていて、歴史の授業との関連性として、これ見たことあるよねっていうような、パッと見てわかるようなものが図工でも出てきているっていうところで、非常に興味深いと思いました。

岡田教育長

ほかにどうでしょうか。

武内委員

篠永先生の、その日本の作品のよさみたいなのも思うんですけども、私は日文のほうの、この５、６年下ですか。ここに見開きでゲルニカが大きく載っていて、また同じページに原爆ドームの絵も紹介されていたりして、平和ということについて、子どもたちに考えさせる。６年生は修学旅行とかで原爆ドームに行ったりするところが多いと思うんですけども、その辺ともつながりを持たせたりして、このあたりは捨てがたいなというふうに思います。

岡田教育長

ほかはどうでしょうか。

片山委員

私のほうからは、子どもたちがいろんな作品を制作するに当たっての内容で、ちょっと両方を比較したいと思います。開隆堂さんなんですが、各単元の初めのページの上部に、使う道具の絵と名前が書いてありまして、そのほか囲みの記述の中で学習の目当てとか、安全とか、後片づけとか、そういうようなことがきちっと整理して書かれております。そのあたり、子どもたちが制作をする上での目安になるのではないかというふうに思います。

また、授業で子どもたちが作品を制作するに当たって、いろんな流れですね。つくり方、これが写真とかイラストで非常にわかりやすく表現されていたなというふうに思います。もちろん、日本文教出版さんでもいろいろ同じような配慮はされておりますが、例えば使う道具では絵だけが表示されているとか、そういうようなこともありまして、内容的に充実しておったのは開隆堂さんだったというふうに思います。

篠永委員

制作過程で言えば、片山先生がおっしゃるとおりかもしれませんが、日本文教さんも制作過程がうまく表現されていて、作ってて、見てて楽しいかなっていう視点でなかなかよかったと思いますし、道具のことで言っても、５、６年の日本文教さんのほうでは、接着剤とひっつけるものの組み合わせの一覧表が大きく載ってて、あれなかなか一生ものかな、実生活でしっかり使えるのかなと思います。なかなか、どれとどれをくっつけるときに、どの接着剤がいいのかなんて、実際私自身も悩みますし、そういう意味では日常生活に密着しててっていうことで、なかなか捨てがたいかなと思っております。もちろん開隆堂さんのほうも接着剤はどうだっていう説明はございますけれど。

岡田教育長

ほかどうでしょうか。

堀村委員

日本文教さんでも取り上げられてはいるんですけれども、開隆堂さんのほうが身近なものとか、要らないものを使って、それを作品に生かすという活動が多く取り上げられてるように思いました。身近なものからつくってみようという、子どもたちの制作意欲をかき立てられる構成になっているのではないかなと思っています。

岡田教育長

ほかはどうですか。

片山委員

先ほど、制作の流れもありましたですが、子どもたちがつくった作品にどんなものがあるのかなということで、開隆堂さんを見ますと、児童の作品が数多く取り上げられておりました。例えば、おもしろかったのは、粘土で作られた非常に独創的な形の作品が多く掲載されておりまして、子どもたちがこれからいろんなものをつくっていこうっていう上での、非常に発想を豊かにするような、そういう効果がある作品の展示

があったなというふうに思いました。

岡田教育長

ほかにございませんか。よろしいですか。

意見をいろいろ出していただいて、本当に甲乙つけがたい両方ともいいものがあるということでございますが、身近なものを作品にして創作意欲を高めるとか、一つ有名な作品も大きく取り上げてるとか、そういう鑑賞しやすい部分もちょっと含めまして、今、トータルで開隆堂さんのほうが評価が少しだけ高かったということなんですけども、そういう意味で開隆堂さんのほうを採択する発行者に決めたいと思いますが、よろしいでしょうか。

（各委員「異議なし」の発言あり）

岡田教育長

意見分かれるところですが、よろしいですか。

それでは、図画工作につきましては、開隆堂出版を採択することといたします。

議事の途中でございますが、休憩をしたいと思います。

再開は４時１０分とさせていただきますので、よろしくお願いします。

なお、傍聴の方につきましては、休憩中に退席される場合は、再度入室される際に受付でお渡ししました黄色の受付札を係員に見せていただけたらなというふうに思います。よろしくお願いいたします。

では、休憩します。

休　　憩（１６時００分）

再　　開（１６時１０分）

岡田教育長

それでは、再開いたします。

次に、家庭科について、選定委員会では、東京書籍、開隆堂出版の２者が選定されて

おります。家庭科の発行者は２者だけでありますので、この２者について合わせて協議したいと思います。各委員のご意見をお願いいたします。

堀村委員

東京書籍さんのほうが開隆堂よりも大判となっているんですけれども、それを上手に生かしてるなという印象を受けました。例えば、野菜を切るページがあるんですけれども、実物大の写真が掲載されていて、とてもわかりやすく見やすいと思います。ただ、東京書籍のほうがアレルギーの記載が、食物アレルギーを確認するということだけで少なく、それだけしか触れられていないのが残念です。アレルギーの記載に関しては、開隆堂さんのほうが少し詳しく書かれていました。

岡田教育長

ほかはどうでしょうか。

武内委員

東京書籍のほうですけれども、どちらも実習ということで、食べ物の調理実習が入っているんですけれども、東京書籍のほうは、調理実習の手順、そして必ず最後に片づけっていう部分がありまして、使ったものを洗うとか、食べた後の食器を洗うとか、そういうことまで取り上げられているのは、これはおもしろなっていうふうに、いいなっていうふうに思いました。

開隆堂のほうは、盛りつけ方のところで、一人でもやはり、一人だからと言ってがさがさっといただくんじゃなくて、おいしくいただくためには、こんな盛りつけ方をしたらいいですよみたいな一人分の盛りつけ方と、数人分、大勢の分の盛りつけ方っていうふうな比較が載っていたりして、今、一人で食べる子どもたちっていうのも問題になっていますし、そんなときでもやはりおいしくいただこうねっていうことを訴えるような部分で、この取り組みもおもしろいな、いいなっていうふうには思いました。

岡田教育長

ほかはどうでしょうか。

篠永委員

私は、堀村先生のご意見と同じで東京書籍さんの大判を使ったダイナミックなレイアウトっていうのは、非常にアピールするんじゃないかなと思います。といいますのも、縫ったりとかの手元がよくわかりやすいっていうところもあったと思いますし、調理やお裁縫とかが苦手な子どもたちでも、あの大きさのあのきれいな写真であれば、やる気が出てくというような観点から、非常に大判を生かしている、生かし切ってるかなというのが、東京書籍さんかなというのが印象です。

岡田教育長

私自身もボタンつけをするんですけど、子どもたちが本当に初めてボタンつけするときに、パッと見た感じどれが一番子どもたちにとってわかりやすいのかなというふうに思ったときに、東京書籍さんのほうがイメージも含めて持ちやすいかなというふうに思って、２回出てきたかなと思うんですけど、それぞれがつけやすい形になって、イメージとしては抱きやすい部分があったのかなというふうに思ってます。

ほかにはどうでしょうか。

片山委員

２者を比較いたしまして、東京書籍さんのほうがよかったかなという印象です。内容的に見まして、巻末に２年間のまとめがありまして、この中でミシンの扱い方とか、アイロンの仕方とか、いろんなポイントがわかりやすく説明されて、情報量も非常に多い。いずれ卒業いたしましても、これを見て参考にいろいろ活用できるんではないかと、こういった便利な内容が含まれてたということで、東京書籍さんがよかったかなというふうに思います。

岡田教育長

ご意見を全部出していただきました。ほかにありませんか。

それでは、家庭科につきまして、今、各委員のご意見を伺いますと、東京書籍を評価する意見が多いというふうに思いますので、採択する発行者につきましては、東京書籍に決めたいというふうに思いますがよろしいでしょうか。

（各委員「異議なし」の発言あり）

岡田教育長

それでは、家庭科につきましては、東京書籍を採択することといたします。

続きまして、保健についてです。選定委員会では、東京書籍、光文書院、学研教育みらいの３者が選定されております。教育委員会としまして、まず選定外となりました大日本図書、文教社について協議をいたします。各委員のご意見をお願いいたします。

武内委員

大日本図書なんですけれども、これはちょっと判が小さいので情報量が少ないかなというふうに思います。もう一つ、中身的に、成長曲線が掲載されていて、成長曲線というのは平均的なものなのかもわからないんですけども、やはり個人差があるものなので、そのあたりに対する配慮がもう少し欲しいなっていうふうに思いました。

岡田教育長

ほかはどうでしょうか。

篠永委員

武内先生がお触れになった成長曲線というところでいえば、文教社さんのほうもやっぱり個人差への配慮という点ではちょっと残念だったかなと思います。加えて、ほかの教科書にはあるんですけども、子どもの相談窓口が文教社さんだけ記載されていないっていうところがあったかと思うので、そこが非常に残念だったかなと思います。

岡田教育長

ほかはよろしいでしょうか。

各委員のご意見のほうから、選定外の大日本図書、文教社を採択の対象としないことが適切であると考えますが、異議ございませんか。

（各委員「異議なし」の発言あり）

岡田教育長

異議なしと認めます。それでは、選定されました東京書籍、光文書院、学研教育みらいの３者について協議をいたします。３者の中から採択する発行者を決めてまいります。

まず、東京書籍について、各委員のご意見を伺いますが、３者について合わせたご意見でも構いませんので、よろしくお願いいたします。

武内委員

３者比べてというか、３つについて同様の課題でちょっと見てみたいと思います。今、一番子どもたちにとっても、私たちにとっても重要な課題であります、いじめとか、そういう悩みについて、どんなふうに取り上げられているかなというのは、どの発行者も力は入れてると思うんですけれども、その相談窓口っていうんですか、それとか、連絡先とかいうのが、東京書籍はちょっと記載が小さいかなっていうふうに思います。光文書院、それから学研教育みらいについては、適切に取り上げて掲載されているなというふうに思いました。

岡田教育長

ほかにはどうでしょうか。

片山委員

私のほうからは、パソコンやスマホですね、これに対する影響ということで見させていただきました。現在、パソコンとかスマホが普及しておりまして、日常生活ではなくてはならないものになっております。小学生の間でも保有率が年々増加しております。それに伴いまして、目の病気とか、視力低下とか、運動不足とか、いろいろな事件等にも巻き込まれると、いろんな心配がされております。

選定された３者につきましては、これらの問題についていろいろ取り上げられております。このあたりについては評価するところなんですが、光文書院さんが、ブルーライトですか。それによる目に与える影響とか、いろんな危険性、それから、こういう問題から起こる健康への問題と保持の問題とか、いろいろ内容を多岐にわたりまして取り上げていただいてるということで、非常に充実してるなというふうな印象を受け

ました。

以上です。

岡田教育長

ほかはどうでしょうか。

篠永委員

片山先生も、ブルーライトというか、スマホという視点でというところだったと思いますが、もう一つ新しい視点でというと、話題といいますか、薬物乱用についても、やはりはやってるという意味じゃないですけど、やはり迫ってくる危険としては、子どもたちにメッセージを正しく学習してもらいたいなというところはあるかと思います。

東京書籍さんは、薬物乱用の学習のページでは、実際の薬物を使用した際の写真などが適切に配置されていたと思います。光文書院さんがもっと発展的だったと思うのは、薬物乱用の害の学習で、実際の写真はもちろんあるんですけども、危険ドラッグという、最近、より若い世代が手を出しているというようなニュース、昨今よく読んだり、聞いたり、見たりするわけなんですけども、危険ドラッグの記載があるのがとてもよかったのかなと印象があります。学研教育みらいさんのほうは、やっぱりそういう正しく怖いっていうのを教えるという意味では、ちょっとイラストでの掲載に終始されてたので、実際の写真がないんですよね。そういうところで、ちょっとインパクトが他者と比べると弱かったかなと考えます。

岡田教育長

ほかはどうでしょうか。

堀村委員

私は、事故防止の観点から見たんですけれども、事故防止については、どの発行者も扱ってはいるんですけれども、光文書院さんが一番詳しかったかなと思います。交通事故についても、死角とか内輪差などについて、子どもたちに知ってほしい情報が載せられてますし、最近の問題としては、歩きスマホの危険性についても触れられてい

ますので、いいかと思いました。

岡田教育長

私も光文書院さんを見させていただいて、今現在子どもたちに伝えていかなければならない、そういう課題というか、現在のそういう部分が広く取り扱われてるなというふうには思っています。

ほかに何かご意見ございませんか。

東京書籍さん、学研教育みらいさんにもいろいろいいところあるんですけれども、光文書院のほうが、今それぞれのご意見をお伺いして、いいところが多いというところで、光文書院さんを評価する意見が多かったと思いますので、採択する発行者を光文書院さんに決めたいと思いますが、よろしいでしょうか。

（各委員「異議なし」の発言あり）

岡田教育長

それでは、保健につきましては光文書院を採択することといたします。

続きまして、英語についてです。選定委員会では、東京書籍、教育出版、光村図書出版の３者が選定されております。教育委員会としては、まず選定外になりました開隆堂出版、学校図書、三省堂、新興出版社啓林館の４者について協議をいたします。各委員のご意見をお願いいたします。

片山委員

まず開隆堂さんなんですが、巻末に付録ということで単語リストがつけられております。一見便利なようなんですが、辞書のような形でございまして、子どもたちにとっては非常に使いにくいんではないかというふうに思います。

岡田教育長

ほかご意見どうでしょうか。

篠永委員

学校図書さんのほうでございますが、たくさんの写真・絵などがあって、説明も丁寧なんですけども、その分日本語の表記が多くて、少しごちゃごちゃっとしてる感じがあって、あまり英語の教科書としてはどうかなっていう印象を受けました。

岡田教育長

ほかはどうですか。

堀村委員

私、三省堂さんについて気になったんですけれども、見開き左右のページで各者ほかの教科書は、左と右と内容がリンクしてるところ、関連させたページが多いんですけれども、三省堂さんは左右のページに全く関係のない、関連していないページがありまして、授業の組み立てがしにくいのではないかなと気になりました。

岡田教育長

ほかにどうでしょうか。

武内委員

啓林館についてですけれども、６年生で過去形のユニットが３つもあるというあたりがとても気になりました。過去形の語句がとっても多くって、少し難易度が高いんじゃないかなというふうに感じました。

岡田教育長

今、各委員から４者についてご意見をいただきました。それでは、各委員のご意見の中から、選定外の開隆堂出版、学校図書、三省堂、新興出版社啓林館の４者について、採択の対象としないことが適切であると考えますが、異議ございませんか。

（各委員「異議なし」の発言あり）

岡田教育長

それでは、選定されました東京書籍、教育出版、光村図書出版の３者について協議を

いたします。３者の中から採択する発行者を決めてまいりたいと思います。

まず、東京書籍について各委員のご意見をお願いしたいなというふうに思います。

武内委員

言語活動を大事にしたいというのが、私たちが英語に携わるときの願いなんですけれども、そのあたりで、ちょっとそれぞれの教科書がどんなふうになってるのかなっていうことで見てみました。

東京書籍のほうは、自分の考えや気持ちなどを伝え合うという内容がとても多く取り上げられていましたし、ユニットごとに歌とか、楽しみながら取り組んでいけるようなチャンスとかが用意されていて、これはとても子どもたちも意欲的に取り組めるんじゃないかなっていう印象を持ちました。

岡田教育長

ほかにご意見ございませんか。

堀村委員

教育出版さんについてなんですけれども、子どもたちが英語が楽しい、好きだというふうに思えるような、そのようなつくり方になってる教科書がいいなと思うんですけれども、教育出版さんは、言語の使用場面が身近な題材を取り上げてつくられていて、英語に親しみを持って、楽しく学べるように工夫されてるなと感じました。

岡田教育長

ほかどうでしょうか、ご意見は。

篠永委員

ほかの教科もそうなんですけど、英語はやはりより一層お話をし合うっていう視点が大事かなと考えます。そういう意味では光村図書さんが、アクティビティが充実していて、クラスとか班であったり、隣の子とのペアなんか、実際友達といろんな場面で一緒に勉強できる素材が散りばめられてるのは、英語っていうのは非常に相手と話をするものなんだよっていうところで、言語活動の場面っていうことに関して言えば、

光村図書さんはやっぱりそういうところに力を入れてらっしゃるのかなという印象を持ってます。

岡田教育長

ほかにはないでしょうか。それぞれのご意見はよろしいですか。

私のほうから、５年生、６年生でこれから教科化という形でされますけれども、児童が本当に興味を持って英語を学べるように工夫されてる点というのは、この３者でどうかなと。このあたりが一番重要になってきますし、英語嫌いをつくらないというのも含めてですけれども、そのあたりでちょっとご意見をお伺いしたいんですけど、どうでしょうか。

武内委員

東京書籍の別冊のピクチャー・アンド・ディクショナリーっていうのは、イラストを見ながら辞書のかわりになるような、とても家庭学習のほうにも使えるし、それから授業でも活用できるしというふうなところで、これはとても辞書的な役割としていいなと思いました。

それから、内容的にはどの発行者も変わらないかなと思うんですけれども、東京書籍のほうはサイズが大きくって、ページ内にある情報量がちょっと他と比べて多いかなっていうふうに思いました。もう少し精選されてもいいのじゃないかなっていう気がしました。

岡田教育長

ほか東京書籍さんについてはございませんか。

教育出版さんについてはどうですか。

武内委員

教育出版については、これはとてもおもしろいなと思ったのは、低学年のときに習った「はしのうえのおおかみ」とか、それから「がま君のお手紙」とか、そういう児童が知っているお話を英語で取り上げていて、子どもたちがイメージ化しやすいし、英語でもこんなふうに言ったらいいんだなみたいなことで、とても興味深く取り組める

かなというふうに思いましたので、これはいいなっていうふうに思いました。

岡田教育長

ほかどうでしょうか。教育出版について。

堀村委員

教育出版さんは、全体的にユニットの流れのバランスがよくって、選定委員の方からも一番授業がしやすそうだという意見がありましたので、私は教育出版がよいのではないかなと思っております。

岡田教育長

ほかはどうでしょうか。

篠永委員

私も教育出版さんがいいかなと、ユニークだと思います。比較的、イラストなどが、子どもたちにとって見やすく、わかりやすく、目がパッと行きそうなっていう配慮が多いのと、あと一つものすごくユニークだなと思ったのは、アメリカの手話をしようっていうことで、手話のことを取り上げてるのは教育出版さんだけで、ほかの会社にはなかったかと思います。

やはり多文化共生、かついろんな障害の方ともコミュニケーションをとるっていう意味で、英語にも手話があるんだっていうところの、手話で英語がしゃべれなくてもいいですけど、やっぱりあるんだっていうことが発展的にわかるっていう取り組みがあって、非常に工夫された教科書なのかなという印象を持ってます。

岡田教育長

私の観点は、やっぱり英語嫌いをつくらないという、そういう部分なので、子どもが抵抗なく受け入れられるようなものがいいのかなと。それで言えば、教育出版かなというふうにちょっと思っています。

あと、教育出版については特にご意見ございませんか。

それでは、光村図書はどうでしょうか。

片山委員

皆さんが教育出版のいい点をいろいろお話されましたが、私は光村図書ですね。外国の方と日本人の違いといいますか、会話をするときにジェスチャーとか、身ぶりとか、そのあたりの差がかなりあります。これからコミュニケーションをよくしていくためには、やはりそういうことが大事だと思います。光村図書は「伝える技を身につけよう」とか、「４つの大切」というそういうページの中で、表情とか、ジェスチャーの大切さ、このあたりを教えておられます。そのあたりでよかったかなというふうに思いますし、また、アクティビティという、先ほど篠永先生からもおっしゃられましたが、そういう内容も豊富でございまして、いいように思います。

ただ、最初の英語の教科書ということでは、少しレベルが高く、難易度が高いかなというような印象を持っております。

以上です。

岡田教育長

ほか、光村図書に関しましてご意見ございませんか。よろしいですか。

今、いろいろご意見をお伺いしてますと、一番評価が高かったというのは教育出版ということになります。教育出版を採択する発行者として決めたいと思いますが、よろしいでしょうか。

（各委員「異議なし」の発言あり）

岡田教育長

それでは、英語につきましては、教育出版を採択することといたします。

最後、道徳について、今から協議をさせていただきます。選定委員会では、光村図書出版、日本文教出版、学研教育みらいの３者を選定されております。教育委員会といたしましては、まず選定外となりました東京書籍、学校図書、教育出版、光文書院、廣済堂あかつきの５者について協議をいたします。各委員のご意見をお願いいたします。

武内委員

まず、東京書籍ですけれども、教材ごとにきちっと主題を明記して、それについて考えるんですよというふうなことが、子どもたちにつかみやすいのかなとは思うんですけれども、逆に子どもの思考をそっちの方向に誘導していってしまう可能性があるような気がしまして、ちょっとこのあたりは考えたいなというところです。

岡田教育長

ほかにどうでしょうか。

片山委員

学校図書なんですが、教科書の中に道徳ノートというのがつけられております。この道徳ノートの使い方なんですが、ここで教材を読まれて心に残ったこととか、あるいは考えたこと、感じたこと、こういうことを記入するということが、学習の記録として非常に効果的なことだと思うんですが、自分の考えを書くのと、その次に友達の考えを記入すると。こういうことだけで終わっておりまして、友達の考えを自分の考えと比較して、さらに考察をするということで、自分の意見を見詰め直すと、こういったことが必要かと思うんですが、この辺については触れられていないということで、若干その活用としては不十分だなというふうに思いました。

岡田教育長

ほかに。

篠永委員

教育出版さんのほうでございますが、教科ごとに記載されているメインテーマ、主題の表現が子どもの思考を誘導して、答えを先に出してしまってるみたいな感じの構成になってるところが、ちょっと固定的な感じで、画一的な印象を受けたと思います。道徳っていうのは、こうだよっていう答えがない教科であるのが大前提であって、そのいろんな意見の中で、ともにその意見を尊重してやっていくため、生きるためにどうやっていくのかっていうのが大事な、それを考える教科でありますので、あんまりテーマに対して、こういう答えみたいな感じでの設定になってくると、ちょっとやは

り誘導的で、そう答えなきゃいけないみたいな感じになってしまうのが、ちょっと残念かなと思いました。

岡田教育長

私のほうから、光文書院のほうを見させていただいて、特に最後のほうでいろんな意見が出て、最後のほうのまとめのところで、生活の中で実行してみましょうというか、そういう行動をある意味強いるようなというか、そういう表現は、道徳というところで言えば、やはり自分で考えて、自分で行動していくというそういう部分が、本当に必要になってくるので、その部分でやはりちょっとどうかなというふうには思いました。

ほかはどうでしょうか。

堀村委員

廣済堂あかつきさんなんですが、これにも道徳ノートっていうのがついてまして、学習の記録という自由に記載できる欄もあるんですけれども、ページの半分以上は問いが決められているノートになっておりまして、活用が難しいのではないのかなと懸念しております。

岡田教育長

５者について、いろいろご意見いただきました。それ以外に何か５者についてご意見ございますか。よろしいでしょうか。

各委員のご意見を今までお聞きして、選定外の東京書籍、学校図書、教育出版、光文書院、廣済堂あかつきの５者について、採択の対象としないことが適切であると考えますけども、異議ございませんか。

（各委員「異議なし」の発言あり）

岡田教育長

異議なしと認めます。それでは、選定された光村図書出版、日本文教出版、学研教育みらいの３者について協議をいたします。３者の中から採択する発行者を決めてまい

ります。

まず、光村図書出版について、各委員のご意見をお願いしますが、３者について合わせてご意見があればいただけたらなというふうに思います。どうでしょうか。

堀村委員

私は、タイトルに着目したんですけれども、学研教育みらいは「新・みんなの道徳」というタイトルだけで、特にメッセージはないものなんですけれども、光村図書さんは「きみが　いちばん　ひかるとき」、日本文教出版さんは「生きる力」といったメッセージを込めたタイトルが、６年間一貫してつけられていまして、道徳で大切にしたいことが一貫して示されているっていうところで、とてもいいなと感じました。

岡田教育長

ほかにどうでしょうか。

片山委員

私は、目次がどうなってるのかということで、３者を比較してみました。目次は、学ぶ上で目安になるものでありまして、非常に大切なものであります。そこで、３者を比較いたしますと、光村図書なんですが、目次を開きますと「いじめを許さない心」、「情報と向き合う」などの現代的なテーマが、教材とコラムという、この２つをセットにして、ユニットで配置されていると。ですから、こうした重要課題に向き合いやすいなというふうに、そういう工夫がされていると思います。

次に、日本文教出版ですが、この発行者は人との関わりを重点のテーマにしておられまして、年間３回のいじめ防止ユニット、こういう教材が時をおいて繰り返し展開されると、こういうような配置の工夫がされておりました。

次に、学研みらいなんですが、目次は色分けはされてるんですが、教材のテーマがわかりにくいということで、特にいじめなどの重要テーマがどこにどう配置されるのか、もう少しわかりやすく表示されたほうがいいんではないかというふうに感じました。

以上です。

岡田教育長

ほかにどうでしょうか。

武内委員

主題とか問いなどが適切で、主題に迫っていけるような取り上げ方ということで、ちょっと見てみました。そしたら、日本文教出版のほうが、いじめの心のベンチなどに、いじめの行動図みたいなものがきっちり提起されていて、こういう、いいことはいい、これはよくないっていうふうなことをはっきり示すっていうことも大切なのかなという気もしたんですけれども、やはり道徳でそれぞれ自分がどう思うのか、どんなこと考えるのか、お友達はどんなことを考えるのかっていうことを議論できるようなものっていう意味では、あまりはっきりと示されて、こうですよ、ああですよっていう決めつけのようなことにならないほうがいいかなというふうに思います。

そういう意味で、光村図書のほうは、主題ははっきり示されていますけれども、子どもが考えたり、話し合ったりっていうふうなことを大事にしたような問いが示されていて、とてもいいなというふうに思いました。

学研教育みらいのほうは、ちょっとそのあたりの主題の提起の仕方っていうのがきちっとされていないので、学ぶほうとしても、指導するほうとしても、一緒に学んでいくほうとしても、わかりにくいかなっていう感じはしました。

岡田教育長

ほかどうでしょうか。

篠永委員

３者の比較という視点からで、私は紙面、ページの使い方、その中で写真の使い方なんてのはどうなのかなと見ておりましたところ、学研教育みらいさんはＡ４のサイズの紙面をちょっと生かし切れてない印象で、視覚的に訴える、ばんとした命の大切さなどを訴えるような写真が、ちょっと乏しいのかなという印象があります。子どもたちがなかなか心をとらえて、心を開いて考えていく取っかかりが、何かそのあたりがちょっと残念かなと思ってます。

光村図書さん、日本文教さんは、両方ともそういう意味では写真が比較的有効に使われていて、日本文教出版さんは５年生で「ひとふみ十年」って言って、山の食物を踏

みつけちゃうと１０年復帰にかかりますみたいな感じの教材だったかと思うんですけども、美しい写真でっていうのが出てたと思います。光村図書さんは「命の旅」、６年生ですね。そこで効果的な写真がありました。サケが川に上ってくるというところで、それを卵をいっぱい抱えたサケがいっぱい川を上ってくるわけなんですけど、やっぱり生きるために熊がそれを獲るダイナミックな、ばんと水面をかきとって、サケを捕まえてるところ。次のページでは、そのおこぼれをもらう狐さんが、そのサケを頬張ってる写真。両者とも非常にダイナミックであったと思いますが、ただちょっと残念だったと思うのが、２者ともでありまして、光村図書さんのその写真は、確かに命の大切さを教える写真がそのほかにもあるんですけれども、狐がそのサケを頬張っている写真がちょっと血がついた写真がありまして、私は医者なので血なんか何とも思わないんですけど、やはり子どもによっては、ああちょっとっていうふうな感じで、気分が悪くなる人もいるのかもしれませんから、そのあたりがちょっと疑問です。

だけど、ものすごくダイナミックな写真がそこでは扱われていてよかったと思いますし、日本文教さんのほうもちょっと残念だなと思うのは、これは比較の問題ですけども、そういう動物的なダイナミックさよりも、日本文教さんはちょっと静的な命に訴える写真を使われていらっしゃるということで、初学者にはやっぱりダイナミックな写真のほうがいいのかなと思うので、どっちもいいんですけれども、それぞれちょっと血がついてる写真があったり、ちょっと静的な、静的なっていうのはセクシャルっていう意味じゃなくて、スタティックという意味で、動的静的という意味で、そういうところがそれぞれちょっと残念なところではありました。でもどっちもよかったです。

岡田教育長

ほかはどうでしょうか。よろしいですかね。

今、聞いていますと、２者ですね、光村図書さんと日本文教出版さんの評価がそれぞれあるということで、甲乙つけがたい部分があるんですけども、光村図書と日本文教出版、この２者について、どちらにするかということで、ちょっと考えていきたいと思うんですが、よろしいですか。

それについてご意見をちょっとまたお伺いしたいと思います。２者の比較ということですが、そのあたりはどうですか。

武内委員

２者の比較ということですので、ちょっと同じ題材について見てみたんですけれども、杉原千畝さんという過去の外交官の人が、たくさんのビザを発行したというお話ですけれども、そのことを取り上げて、日本文教出版のほうはそういう外交官の方がいらしたということのお話として取り上げています。光村図書のほうは、そのことが今につながっているよっていうふうなことの設定になっていて、やはりこのほうが子どもたちにとっては、過去の話だけじゃなくて、それがずっと、脈々と今につながっているっていうふうなとらえ方ができる点で、すぐれているかなというふうに思いました。

篠永委員

私からは、この２者の比較として印象的なところを上げさせていただきますと、光村図書さんで「おじいちゃんとの約束」という教材があるんですけども、どれも高齢者、そして亡くなっていかれるっていうところの場面の教材っていうのはそれなりにあるんですけれども、この「おじいちゃんとの約束」っていう光村さんの教材は、まず初めの数行の導入が非常に印象的です。というのは、子どもが本当に今の世相を映してるような感じで、テレビゲームをしているところがあったと思うんですけど、そのテレビゲームをしながら、もう死ねと言っているわけです。そのテレビ画面に向かってですよ、敵を殺してるんだと思いますが。そういうような、ゲームの場面であるにしても、軽々しく生死に対して言うような日常の中で、ある日突然、そのおじいちゃんが入院されて、体調を崩していくという過程を、老いということを、そして生命の大事さっていうのを説いてくっていう題材の中で、やはり、この現代の子どもに訴えるような場面なんだと思います。そんなゲームで死ねって言いながらやってるっていうようなね。先生方が、みんなこんなこと言ってるんじゃないのって言って、それと対比してやっぱり命って大事なもんだからっていうような、先生がそういう今の世相、今の子どもに響くような題材として、より取り上げやすいのではないかなっていうのが、非常に印象深い、そういう教材だったと思います。

日本文教さんはちょっとそれに肩を並べるような、同じような教材がなかったかなと思いますし、あるとしても「最後の贈り物」っていうようなところかと思うんですけども、ちょっとテーマが少し違うかなというところで、光村さんのほうがよかったか

なと私は思います。

岡田教育長

ほかはどうでしょう。

堀村委員

私も、光村図書さんでおもしろいなと思ったのが、人気作家でイラストレーターのヨシタケシンスケ氏が書いたページがありまして、「なんだろう　なんだろう」というタイトルなんですけれども、それがどの学年にも共通してありまして、毎年新しい教科書をもらったたびに、このページを楽しみに見れるんじゃないかなと思って、いいなと思いました。

あと、日本文教さんに関しては、ノートがついてるんですけれども、１年生と２年生のノートにはマス目が書かれてるものがありまして、それについては書きやすい反面、字数の制限があるということになりますので、自由に書けないというところで気になりました。

岡田教育長

ほか、どうでしょうか。

片山委員

私は光村図書だけなんですが、この図書を拝見させていただいて、表紙の裏を見ますと、「みんな生きてる　みんなで生きてる」と、そういうふうなメッセージが全学年の表紙の裏に載せられていました。このメッセージについて、人はそれぞれ受けとめ方というのは違うかと思いますが、人それぞれが大切な命をいただいて、つながりを持って精いっぱい生きていると、こういうようなことをあらわしているように思います。この教科書を手にとった子どもたちの心に響くすばらしいメッセージだというふうに感じております。

以上です。

岡田教育長

今、２者の比較でそれぞれご意見いただきましたけど、光村図書のほうが評価が高いというか、そちらのほうにあったと思いますけども、私自身もこれを見てみて、一貫性というか、先ほど片山委員が言われたように、「きみが　いちばん　ひかるとき」とか、「みんな生きてる　みんなで生きてる」というか、それをずっと各学年に書いてあって、生きるということに関してというか、そのあたりはちょっと一貫してるのかなというふうには思っていました。

道徳は、本当にいろんな意見を受け入れる、そして、自分で考えて、ある意味は自分で行動していくという、そこまでつなげる教科でありますので、そういう部分でも、今、評価が高かったほうですね、光村図書、これに集約したいと思いますけども、採択する発行者を光村図書出版に決めたいと思いますが、よろしいでしょうか。

（各委員「異議なし」の発言あり）

岡田教育長

それでは、道徳につきましては、光村図書出版を採択することといたします。

議事の途中でありますけども、定刻が迫っておりますので、時間の延長を行ってよろしいでしょうか。

（各委員「異議なし」の発言あり）

岡田教育長

異議なしと認めまして、本日の会議時間を延長いたします。

次に、小学校における学校教育法附則第９条関係図書についてでありますが、提案者の提案のとおり、「必要に応じて採択する」ということでよろしいでしょうか。

（各委員「異議なし」の発言あり）

岡田教育長

それでは、小学校における学校教育法附則第９条関係図書につきましては、「必要に応じて採択する」ことといたします。

他に質問ございませんか。

お諮りいたします。質疑を打ち切りましても異議ございませんか。

（各委員「異議なし」の発言あり）

岡田教育長

異議なしと認めます。

よって、議案第２１号は以上のとおり可決をいたしました。

日程第４　議案第２２号「職員人事について」を議題といたします。

武内委員

議案第２２号は人事案件のため、非公開でお願いしたいと思います。

岡田教育長

武内委員から非公開の動議が提出されましたが、本件は非公開とすることに異議ございませんか。

（各委員「異議なし」の発言あり）

岡田教育長

異議なしと認めまして、本件につきましては非公開といたします。

関係者以外の方の退室をお願いいたします。傍聴者の方も退室をお願いいたします。

暫時休憩します。

休　　憩（１６時５８分）

再　　開（１６時５９分）

＜非公開＞

岡田教育長

ただいまより各委員の賛否及び意見を求めます。

（各委員「原案賛成」の発言あり）

岡田教育長

各委員のご意見は原案に対して賛成であります。

本件は原案のとおり決することに異議ございませんか。

（各委員「異議なし」の発言あり）

岡田教育長

異議なしと認めます。

よって、議案第２２号は原案のとおり可決されました。

以上をもちまして、本日の議事日程は全部終了いたしました。

令和元年第１０回茨木市教育委員会臨時会を閉会いたします。

本当に長時間ありがとうございました。ご苦労さまでした。

（１７時０６分　閉会）

以上会議の顛末を記載し、茨木市教育委員会会議規則第１７条によりここに署名する。

令和元年８月１日

茨　木　市　教　育　委　員　会

教　育　長＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

署 名 委 員＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿